

大宜味



大宜味村

教育・歴史文化の輝く健康長寿村

「長寿の里」「芭蕉布の里」「シークワサーの里」「ふながやの里」として知られる大宜味村。中でも日本一の長寿村として、豊かな自然の恵みを生かした伝統ある食文化などが、沖縄県外、または海外からも多くの注目を集めています。大らかな自然に囲まれた大宜味村はまさに「沖縄の桃源郷」なのです。



大宜味村

沖縄本島北部、国頭郡に属し、那覇市から北に約87kmに位置する村。豊かな自然に囲まれた17の集落からなり、村人の気質はおおらかで明るい。人口約3,200人が住む元気な村。

発刊にあたって

大宜味村は、「やんぼる」と呼ばれる沖縄本島の北部に位置し、山、川、海の豊かな自然環境、良好な景観、地域伝統文化等に恵まれた、平和を愛す文化の薫り高い村です。



大宜味村長 宮城 功光

本村は、「豊かな自然が生み出す活力ある村づくり」「健康長寿と子育て・弱者を支える『結』の村づくり」「歴史に学び人を育む文化の村づくり」「安全・安心な住みよい村づくり」の4本を村づくりの基本目標に掲げ、村の将来像である「教育・歴史文化の輝く健康長寿村」の実現に向けて積極的に取り組んでおります。

今後も本村の飛躍発展のために、皆様のお力添えをいただきながら、住民一人ひとりが主役になれるむらづくりに一層の努力を重ねる所存でございます。

ここに発行いたしました村勢要覧が、一人でも多くの方の目にとまり、大宜味村の魅力を知ってもらう一助となれば幸いです。

CONTENTS

大宜味自慢の里巡り

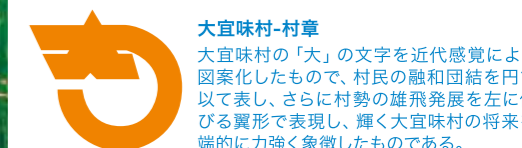
- 04 長寿の里
- 06 芭蕉布の里
- 08 シークワサーの里
- 10 ふながやの里
- 12 のんびりゆったりツーリズム
- 14 大宜味村MAP
- 16 大宜味村17の行政区紹介
- 18 塩屋湾のウングミ
- 20 大宜味村の文化財
- 22 大宜味のまつり(イベント・伝統行事)
- 26 大宜味自慢

大宜味村第5次総合計画

- 32 重点施策
- 34 豊かな自然が生み出す活力ある村づくり
- 36 健康長寿と子育て・弱者を支える『結』の村づくり
- 38 歴史に学び人を育む文化の村づくり
- 40 安全・安心な住みよい村づくり
- 42 大宜味村の行政・議会
- 44 大宜味村の誇りを世界に広げたい
未来へつなげたい
- 45 大宜味村資料篇



村の木: シークワサー 村の花: シークワサー 村の鳥: メジロ
村の蝶々: コノハチヨウ 村の蝶々: ツマベニチヨウ



大宜味村-村章
大宜味村の「大」の文字を近代感覚により図案化したもので、村民の融和団結を円で以て表し、さらに村勢の雄飛発展を左に伸びる翼形で表現し、輝く大宜味村の将来を端的に力強く象徴したものである。



大宜味村のPRキャラクター シークワサーの妖精「おおぎみシーちゃん」
大宜味村の魅力や様々な情報を発信するために、村花・村木に指定されている「シークワサー」をモチーフにし、シークワサーの更なるイメージアップを図るため、親しみのもてるキャラクターとなっている。

大宜味村のPRキャラクター 森の妖精「ふながや」
『ふながや』とは平和と自然を愛し、森や川にすむ妖精。本村の豊かな自然や、心優しい人づくりに夢を育む村民の象徴として、大宜味村の村おこしのPRキャラクターとして親しまれている。

大宜味 自慢の里巡り

豊かな自然環境に恵まれ、そこに育まれる大宜味村民はみんな明るく元気！
長寿日本一の「長寿の里」として、世界に誇れる「芭蕉布の里」として、
栄養満点の「シークワサーの里」や自然と平和を愛する「ぶながやの里」を
大宜味村ふるさと観光大使のアイモコが訪ねます。



ハルサーミュージシャン / アイモコ
大宜味村ふるさと観光大使

ハルサーミュージシャン『アイモコ』のハルサー（畑人）とは、沖縄の方言で農家の方のこと。大宜味村を拠点に音楽活動をしながらTV、ラジオ、CMに活躍中の音楽と自然を愛する夫婦デュオ。大宜味村では皆から愛される人気者。2008年に大宜味村初の「ふるさと観光大使」に任命される。





長寿の里

生涯現役！元気印100%の長寿村

青い海に面し緑豊かな環境に恵まれた大宜味村は、1993年に健康な高齢者の割合が日本で最も高い地域として「長寿の村日本一」を宣言しました。

「長寿の秘訣は？」と老人達に尋ねると、「人間生きている限り生涯現役。心の中に定年を作ってはいけなさい」という共通の返事が返ってきます。実際に村内を訪れると80歳～90歳の老人がしっかりと足どりでイキイキと畑仕事や家事をこなし、村の行事やスポーツ、レクリエーション活動を積極的に取り組む姿をよく見かけます。

歳をとったら引退ではなく、『生涯現役』の気持ちで自分にあった役割や生き甲斐となる環境があり、それを支える家族や地域のサポート「ゆいまーる」(相互扶助)の習慣こそが、肉体的にも精神的にも健康面を支える原動力になっているようです。

「人生一度きり、楽しまないね」と村のおば～達が語るように、よく笑い、歌い踊り、友人と共にうれしい事や楽しい事を共有し合い、何事にも明るく一生懸命に取り組むおば～達の姿に『長寿の秘訣』というよりも、私たちが忘れかけた人生に必要な大事な事とは何かを、考えさせられ、学ぶ事が多くあります。

大宜味村の老人達はまさしく人生のスペシャリスト、『人生の達人』なのです。



道の駅おおぎみにある「長寿宣言の村」石碑。「八十(歳)はサラワラビ(童)、九十(歳)になって迎えに来たら百(歳)まで待てと追い返せ」という文言があります。大宜味村老人クラブ連合会が建てたこの石碑に、大宜味で暮らす元気なお年寄りの皆さんの心意気が感じられます。

■大宜味村3, 162人の人口中、80歳から89歳までが288人、90歳から99歳までが154人、100歳以上は8人。(2016年12月31日の統計)



1 2 3 方言でアツタイグアと呼ばれる家庭菜園で80歳、90歳過ぎても農作物の成長を楽しみながら、元気に農作業します。農業を使わない自給自足で収穫した栄養価の高い農作物と、適度な労働が長寿の秘訣ともいえるのです。

4 軽快なスピードで自転車に乗り、畑に通う平良澄子さん。大宜味村の老人の足腰の強さに驚かれます。5 97歳になっても毎日バイクに乗り、畑仕事や買い物に出かける玉城深福さん。隣は奥さんの文さん90歳。

6 村の年中行事「老人婦人合同スポーツ大会」。老人だからといって応援や観戦役ではありません。積極的にリレーやゲーム、踊りに参加します。村ぐるみで取り組む行事やイベントにしっかりと老人達の活躍の場があり、それを支える村の「人と人のつながりの強さ」に長寿の秘訣があるかもしれません。

7 畑仕事を終えた後の楽しみの一つゲートボール。各集落で盛んに行われ、その表情は真剣そのもの。遊びであっても全力で取り組む姿勢「勝負に負けない」という気持ちが長寿の秘訣になっているかも知れません。若者でもダウンしそうな沖縄の強い日差しの中、老人達のパワーに脱帽!

8 長寿を支える「地域包括支援センター」は高齢者の方が安心して暮らしていけるよう、介護・医療・健康・福祉などのさまざまなサービスを包括的・継続的に支えていくための拠点となる機関です。

長寿の秘密 昔ながらの食事が大事

大宜味村の食生活の特徴を一言で言えば、昔ながらの沖縄の伝統的食生活をしっかりと受け継いでいると言えます。ミネラル豊富な緑黄色野菜や海藻類を多食し、豚肉や豆腐など良質なタンパク質を採ったり、身の回りの野草や薬草を食卓に取り入れたり、自分達の健康管理をしっかりとしていた先人達の知恵の恩恵の賜物といえます。



笑味の店「長寿膳」

地元で今も食べられている伝統食を一品にした笑味の店オリジナル料理「長寿膳」。大宜味村のお年寄りが愛情込めて育てた島野菜を使用しており、長寿につながる元気の源が詰まっています。



年中行事の中で社会参加に喜びと誇りを感じ、後世へと伝統や文化を受け継ぐ事を大事にする郷土愛の強さがあります。



芭蕉布の里

「喜如嘉の伝統工芸」
喜如嘉の女性が守り伝えてきた布



人間国宝 平良敏子

1921年大宜味村喜如嘉に生まれ、母親が芭蕉布を織るのを見て育った幼少時代。いつの間にか母の手伝いをし、機にのぼるようになりそれが平良敏子の織りの原点でした。終戦後、故郷で織っていた芭蕉布への思いを強く胸にいだくようになり、戦後の荒廃した喜如嘉に戻ってきた平良敏子は、芭蕉布再興への日々を歩き始め、それは「喜如嘉の芭蕉布」が世に広く知られていく足跡そのものでもありました。その功績を讃え2000年に人間国宝に認定されました。

世界に誇れる伝統工芸「喜如嘉の芭蕉布」

芭蕉布の里と知られる喜如嘉集落に入ると、昔ながらの赤瓦の沖縄の民家が見られ、家のまわりには、芭蕉布の原料である「糸芭蕉」の木と、その周りを黄色の染料にもなる「福木」の生垣が囲んでおり、今でも染めと織りが生活の一部として自然に溶け込んだ情景に風情があります。芭蕉布の歴史はかなり古く、500年以上の歴史があり、軽くてさらりとした肌触りのよさと、風通しがよいことで夏の衣服として重宝され、身分を問わず、琉球弧の人々に着用されてきました。戦後は近代化につれ、途絶えかけましたが、平良敏子さんを中心とした有志により、村の伝統産業として確立され、喜如嘉の芭蕉布は国指定重要無形文化財(昭和49年4月)、平良敏子さんは、その功績と技術が認められ平成12年6月に人間国宝に認定されました。

「喜如嘉の人達みんなで作っている織物だから」と話す平良敏子さん。糸取りから仕上げまですべて一貫した村人の共同作業によって作られ、その工程は約3年におよぶ糸の材料となる「糸芭蕉」を育てることから始まります。糸を績み色を染め一反の布に織り上げるまで、20余りの工程があり、どこか一箇所でも手を抜くと、仕上げの段階ですべてが台無しになるので繊細な神経と根気のいる手仕事なのです。

「今時こんな美しい布はめったにないのです。いつ見てもこの布ばかりは本物です。その美しさの由来を訪ねると理の当然であって、どうしても美しくならざるを得ない事情にあるのだとさえ云(い)えるのです」と柳宗悦は『芭蕉布物語』にこう書き起こし、時代を越えて、祖先から受け継いだ大切な郷土の技術と文化を守り抜く喜如嘉の女性達を賞賛しています。喜如嘉の女性が想いを込めて織り継いできた芭蕉布は、沖縄を代表する世界に誇れる伝統工芸なのです。



喜如嘉祭り(芭蕉布祭り)

7 8 2年に1度開催され、喜如嘉の女性達が親から受け継いだ芭蕉布の着物を着て踊ります。芭蕉布を大事に愛する気持ちが伺えます。

1 糸芭蕉の木の前で優しく微笑む平良敏子さん。今でも芭蕉布会館には朝一番で駆けつけ、現役で作業に取り組んでいます。

2 3 すべては芭蕉の苗を植えることから始まる。1反の芭蕉布を織るには糸芭蕉の原木を約200本必要とし、繊維が採れるようになるまでに約3年間の手入れが必要。

4 黄金に輝く芭蕉の糸。着物1着分の長さは約16.5kmにもなる。

5 糸芭蕉が風に揺れるのどかな喜如嘉村の風景に癒され、なつかしさを覚えます。

6 伝統の技を守り育て、次世代に受け継ぐために後継者育成事業も行われています。

大宜味村立芭蕉布会館

後継者育成を目的とした施設で、伝統を受け継いでいる人たちの共同作業場にもなっています。1階の展示室では、常時芭蕉布製品の展示、販売や芭蕉布の製造工程のビデオの上映が行われ、2階の作業場では、芭蕉布伝統工芸従事者の研修・作業風景を身近に見ることができます。



■お問い合わせ

〒905-1303 沖縄県大宜味村喜如嘉454番地
TEL: 0980-44-3033 FAX: 0980-44-3251
mail: bashofu@kugani.jp

■開館日

日曜日、旧盆、年末年始
(12月29日から1月3日まで)を除いた日
◎夏季(4月~10月) 午前10時~午後5時30分
◎冬季(11月~3月) 午前10時~午後5時

緑の宝石

シークワサーの里

先人から受け継いだ大切な宝物「シークワサー」は美容と健康に、そして、長寿の源として大宜味村が誇る『緑の宝石』です。



1 さすが「シークワサーの里」。大宜味集落の庭先にもシークワサーの木が多く育っています。2 沖縄一の生産量を誇り、村の基幹産業として村民が丸になって取り組むことを確認し、平成17年に「大宜味村シークワサーの里」を宣言しました。



CNN「世界の美味しい飲物ベスト50」に選出！
米CNNの運営サイト「CNN GO」にてシークワサージュースがベスト42にランクインされました。(2011年12月)

大宜味村自慢のシークワサー

大宜味村を代表する果実であるシークワサーはミカン科の柑橘で沖縄を中心に自生し、日本で2つしかないミカンの原種の一つとされています。8月～10月は酸味が強く酢の物や料理用として、10月～12月はジュースなどの加工用として、12月下旬～1月は果皮が黄金色に熟し、沖縄地方の方言でクガニ(黄金)と呼ばれフルーツ用として出荷されます。生産量は県内で約60%を誇り、沖縄一のシークワサーの産地として知られています。名前の由来は沖縄方言で「シー」は「酸」、「クワサー」は「食わせるもの」を表し、「酸を食わせるもの」という意味で、今では全国的にも知られる果実となりました。

シークワサーの多くはネクマチチ岳に連なる石灰岩地質の山々に育てられ、東シナ海の海風もたらす海のミネラル分をたっぷり含んだ天然の栄養分と、沖縄の強い日差しが独特の味と香りをつくりだします。その果実には代謝を活性化させ、疲労回復や美容に効果のあるクエン酸を多く含んでいるほか、ビタミンC、ビタミンB₁、カロチン、各種ミネラルなども含有するヘルシーな果物として各メディアにも紹介され一躍「シークワサー」は全国的に有名になりました。特にノビレチンという成分には、がん抑制効果が期待されており、長寿との関連が注目されています。

先人から受け継いだ大切な宝物シークワサー。それは『緑の宝石』として、村民一人一人の誇りとして大切にしつつ村の特産として振興し、元気で魅力あるシークワサーの里づくりを推進することを目的に平成17年「シークワサーの里」を宣言しました。

今日では大宜味村シークワサー産地振興協議会を中心に村民が一体となり、村の主産業として地域経済の活性化に努めています。



1



2



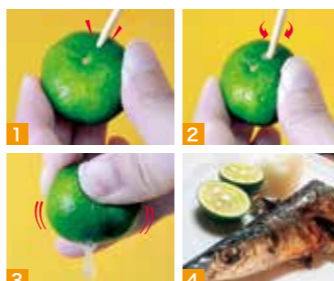
3



4

おおぎみ搾り！ つまようじで種を出さずにシークワサーを搾る方法！

- つまようじを果実のおしりから少し離れたところに刺します。
- つまようじでおしりをグリグリと果実の中をかき混ぜます。
- 果実の腹あたりを押して果汁を出します。
- 焼き魚や肉料理、サラダ等にかけて召し上がれ。



- 8月～10月にかけて収穫される青切りシークワサー。お刺身や唐揚げなどに搾って食べたり、泡盛やカクテルなどに搾って飲んでもおいしくいただけます。
- 黄色く熟したクガニ(黄金)は12月下旬から1月が旬。
- 3月には春の陽気にシークワサーの花が咲き、押川区や上原区の産地では、爽やかな花の香りで満たされます。
- 本土へのお土産としても人気があります。



1 先祖の財産であるシークワサー園をもっと輝かせたいと、栽培・出荷管理を電子化し、時代に見合った農業に取り組む生産者。

2 シークワサーの産地として有名な押川区。

3 4 大宜味村「産業まつり」ではシークワサーを活用したコンクール「シー1グランプリ」をきっかけに、地域経済の活性化に繋がる農産物を活用した加工品づくりに取り組んでいます。



3



4

シークワサーを大宜味ブランドへ 大宜味村特産品(シークワサー)加工施設

平成22年、大宜味村田港にある大宜味村特産品(シークワサー)加工施設の指定管理者に選定された『株式会社 ケレス沖縄』から完熟果実を贅沢に使った「黄金シークワサー」飲料商品が販売されており、他にも南国果汁がたっぷり入った、タンカン、マンゴー、パインアップルの4種類があります。

■株式会社 ケレス沖縄 TEL:0980-44-2312





1



2



3

1 水どころとしても知られる大宜味村には大小16の川があり、清涼感溢れる澄んだ水は命の息吹となって、森の生き物や村民に豊かな恵をもたらします。2 ぶながやが棲んでいるようなガジュマルの古木。3 大宜味の中央部に連なる石灰岩の山々。最高位360mのネクマチチ岳や坊主森（ポウジムイ）、クガニ岳、塩屋富士には散策道が整備され、自然観察や頂上から見る大パノラマの景観を楽しめます。



『ぶながやの里』は自然の宝庫

大宜味村は、総面積の約76%が森林に囲まれており、村民は豊かな自然と共生しながら暮らしています。中央部山地は、ネクマチチ岳、ポウジムイ、クガニ岳といった標高 300m クラスの石灰岩の山々が約 4 キロにわたって連なり、散策道を歩きながら、いろいろな動植物や先人が猪から農作物を守るために築いた「猪垣」も見ることができます。また、複雑な地形の河川も多く、低地部には水田が広がり、御嶽の森や溪流などの多様な環境に、さまざまな動物が棲んでいる。本村には、沖縄の代表的な植物群落として国の天然記念物に指定されている「田港御願の植物群落」や県の天然記念物である「大宜味御嶽のピロウ群落」といった貴重な文化財をはじめ、国指定の天然記念物になっているケナガネズミやノグチゲラ等、動植物の貴重な固有種が数多く生息する「野生生物の宝庫」とも言われています。そのような大宜味村の森や川には「ぶながや」という平和と自然を愛する森の精霊が棲んでいるとされ、豊かな自然の象徴として「ぶながや」は村民の一員として存在します。



ぶながやの里

「ぶながや」は森の精。自然を愛し、平和を運ぶ…大宜味村の里は「ぶながや」と共に暮らす、自然豊かな里です。



ぶながや太鼓

喜如嘉保育所の園児による愛くるしい「ぶながや太鼓」は今や村のまつりやイベントに欠かせない存在となっています。



4



5



8



6



9



7

4 4月の中旬頃喜如嘉の湿田に薄紫色の見事な花を咲かせるオクラレルカ（アヤメ科）の清々しい香りに、初夏の気配を感じます。5 1月になると山々には自生の椿が咲き、その凜とした花を愛でる『椿まつり』が行われます。6 先人たちが猪から田畑を守る為に築いた猪垣（ヤマシシガキ）は全長32km「十里の長城」とも呼ばれ、村の文化財となっています。7 川や湿田は鳥たちが羽根を休める平和なオアシス。8 田嘉里川に咲くヒカンザクラ（緋寒桜）。9 大保川や塩屋湾にはマングローブが自生しており植林活動なども行われています。

ぶながやの里宣言

1998年7月24日 沖縄県大宜味村ぶながやの里宣言

私たちの大宜味村の森や川には、今ではここにしか生息しなくなった「ぶながや」が棲んでいる。

「ぶながや」は、平和と自然を愛し、森や川の恵みを巧みに利用し、時折私たちにその姿を見せてくれる不思議な生き物である。

第二次世界大戦以前は、沖縄のほとんどの村々で暮らしていた「ぶながや」たちは、激しい戦禍と基地被害、戦後復興の近代化に耐えきれず、かつてのふるさとを離れ、20世紀最後の安住の地を求め、豊かな自然と人々の肝清らさにひかれ、大宜味村に命を永らえるようになったという、希少種族である。

私たち村民はこれまで、戦争につながる一切を認めずにくらしてきた。それが平和な国際社会を築くことに大きく貢献していることにいささかの誇りをもち、その気持ちを21世紀に向け、内外に発信したいと考えている。それは「ぶながや」たちが、私たちに語ることも無く教えてくれたことだと気づくようになった。

私たち村民は、村制施行90周年にあたり、「ぶながや」たちと生きてきたことに誇りを持ち、これからの大宜味村の豊かな自然の中で共生し、平和で文化の薫り高い豊かなむらづくりに取り組むことを決意し、ここに「ぶながやの里」を宣言する。



自然 人 結い ま〜る 大宜味 体験

健康長寿が育む癒しの里で のんびりゆったり ツーリズム



大宜味村の特徴を最大限に活用した体験滞在型観光の推進を図るべく、「健康・保養」と「環境保全型」の観光振興を第一義とし、緑豊かな自然を次世代にしっかりと受け継ぐ持続可能な観光地として村ぐるみで取り組んでいます。



塩屋湾・大保ダムカヌー体験

陸地に大きく入りこんだ波静かな塩屋湾や大保ダム湖畔での優しく心地よい風を体感しながらカヌーが楽しめます。

自然体験 豊かな自然環境を体験

1 ぶながやノルディックウォーキング

大保ダム(愛称ぶながや湖)の湖畔でやんばるの森に癒され、亜熱帯特有の自然をゆっくりと観察してください。

2 ター滝トレッキング

通年楽しめる平南川上流のター滝(落差10m)まで、地元ガイドが案内します。滝つぼで味わうマイナスイオンを思う存分味わって下さい。



3 山岳トレッキング・塩屋富士コース

初心者から上級者コースまでやんばるの貴重な動植物を見つけながらゆったり尾根道を楽しめるコースです。



4 ぶながや湖カヌーと大保川トレッキング

大保ダムの湖面でのんびりカヌーを走らせ、大自然の大保川をトレッキング。



5 山岳トレッキング・ボウジムイコース

特異な形で惹きつける岩山ボウジムイとそのパノラマが魅力です。季節によってはツバキが豊かに咲き、亜熱帯特有の植物や蝶々も見る事ができます。



大宜味の自然について、生き方についてホストファミリーより学ぶ事がいっぱい!

民泊体験

家族の一員となって知る
沖縄の心〜ユイマール〜
(思いやり・助け合いの心)
を体験。



クラフト体験(藍染め体験/鏡波区)



慣れない農作業にみんなで力を合わせ取り組みます。

農作業や酪農作業など家族の一員となって体験します。労働の後には食事と一緒に作ったり、クラフト体験や、三味線体験など、地元の人とふれあい、大宜味村ならではの生活スタイルを取り入れた共同作業体験の中から日常生活に浸透した結の心を感じ学ぶプログラム。

自然を学ぼう!



ぶながや湖【大保ダム湖】

ぶながや館【大保ダム地域防災センター・学習資料館】

ぶながや館は、大保ダムに関する情報の他、やんばる(沖縄本島北部地域)の自然や文化を学べる展示施設となっています。また、学習や地域活動が行えるスペースも確保されており、災害時には地域の防災拠点として機能するように、設備の工夫がされています。



NPO法人おおぎまるとツーリズム協会 理事長 宮城健隆さん

『おおぎまるとツーリズム協会』では、大宜味村の自然や文化の大切さを次世代の子どもたちに伝え残しながら、エコツーリズムで元気な村づくりを進めています。



大宜味村での体験プログラムの問合せは
NPO法人 おおぎまるとツーリズム協会
〒905-1314 沖縄県国頭郡大宜味村字田港1357-18

TEL 0980-44-1960 FAX 0980-44-1961
email: oogimi.marugoto@kugani.jp
http://www.ogimi-tourism.com

※他にもたくさんのプログラムがあります。お気軽にお問い合わせ下さい。(NPO法人 おおぎまるとツーリズム協会)

大宜味村MAP

ようこそ、健康長寿のいきいき輝く文化の村へ



A 根路銘海岸（「農村活性化センター」前の海岸）
「農村活性化センター」前にある海岸で、キャンプやビーチパーティーを楽めます。夕陽を眺めるだけでもリフレッシュできるオースメのポイントです。



C 塩屋湾の夕陽
沖縄八景の一つに数えられ、夕陽が沈む景色は絶景です。

アイモコ
（音楽と自然を愛する夫婦デュオ）
大宜味村ふるさと観光大使



サンバ宮城姉妹
（歌う琉球サンバユニット）
大宜味村ふるさと観光レディー



津波山 [235m]



G 大宜味村の猪垣(ヤマシガキ)
主食のイモや作物を守る為に猪垣を築き、ヤマシンの侵入を防いだ。（村指定文化財）



L ぶながや館
大保ダムを紹介や、やんばるの自然環境を学べる施設となっており、おおぎみまるごとツーリズム協会の事務所になっています。



E 大宜味村役場旧庁舎
コンクリート造りの建築物としては県内に現存する最古のものとなっています。（国指定重要文化財）



J 芭蕉布会館（休休日：日曜日）
芭蕉布製品の展示、販売や芭蕉布の製造工程のビデオの上映、芭蕉布伝統工芸従事者の研修等が行われています。

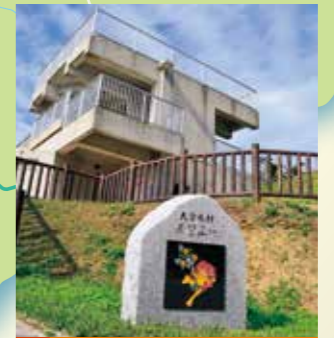
I 喜如嘉田園に咲くオクラレルカ(アイリス)
アヤメ科アヤメ属で別名アイリス。毎年4月頃薄紫の花と濃い緑の葉があざやかで見ると人を喜ばせてくれます。



H 喜如嘉集落（ヒンバー森の拝所からの眺望）
なつかしい沖縄の風景が残る、「芭蕉布の里」として有名な喜如嘉集落。のどかな集落を散策してみるのもいいですね！



K 石山展望台
西海岸・東海岸が見える絶景スポット。日の出や、星空観察にもオススメ。



F イギミハキンゾー展望台
散策道全体の中心となる展望台広場。散策道を歩くとき大自然の中に棲む生きものとの出会いや、眺望地点では海や山の眺めを楽しめます。



D 喜如嘉板敷海岸の板干瀬
喜如嘉海岸の砂浜に沿っておよそ1kmにわたって板敷いたような岩。ビーチロック、沖縄では板干瀬(いたびし)と呼んでいます。（県指定天然記念物）



B 道の駅おおぎみ やんばるの森ビジターセンター
国道沿いにあり、やんばる国立公園の玄関口に位置する『道の駅おおぎみ』にはやんばる3村の野菜を始めとした特産品が購入できる特産品展示販売所のほか、やんばる3村の食材を活かした料理が味わえるカフェレストランもあり、ドライブ疲れを癒すのに最適です。また、観光案内所ではパノラマ映像やVRなどを使った情報発信も行っています。
■道の駅おおぎみ やんばるの森ビジターセンター TEL:0980-44-2233

1 田嘉里【たかざと】 方言名:うえーだー、やはび、すんぼる **田嘉里公民館**

〒905-1301 沖縄県国頭郡大宜味村字田嘉里472 TEL.0980-44-3026



「親田(ウェーダー)」「屋嘉比(ヤハビ)」「見里(スンバル)」の3つのムラでしたが明治36年に合併されました。田嘉里という字名は、この3つのムラの名から一字をとってできたものです。

2 謝名城【じやなくすく】 方言名:にじやみ、てんなす、ぐしく **謝名城公民館**

〒905-1302 沖縄県国頭郡大宜味村字謝名城36 TEL.0980-44-3030



田嘉里の集落からウイグシクの山を隔てた所にあります。根謝銘(ニジャミ)、一名代(テンナス)、城(グシク)が合併し、一文字ずつとり字謝名城となりました。城(グシク)にはウイグシクがあり、グスク時代に、国頭・大宜味村一帯を治めていた国頭按司の居城跡であったと言われています。

5 大兼久【おおかねく】 方言名:はにく **大兼久共同売店・公民館**

〒905-1305 沖縄県大宜味村字大兼久30番地 TEL.0980-44-3282



大兼久は大宜味から分離してできた集落です。そのため一緒に執り行う年中行事が多く、豊年祭の際は、大兼久で祈願をすませた後、大宜味へ行き祭祀を行います。

8 上原【うえはら】 方言名:ういぼる **上原公民館**

〒905-1308 沖縄県国頭郡大宜味村字上原193



上原は根路銘と塩屋から分離した、4つの地区で形成される集落です。根路銘と一緒に年中行事のウングミや豊年祭などを見ると、分離前の関係の名残りがうかがえます。

9 塩屋【しおや】 方言名:さー **塩屋公民館**

〒905-1311 沖縄県国頭郡大宜味村字塩屋371-2 TEL.0980-44-2453



大宜味村の中央に位置する、村内で最も入口の多い集落です。旧暦7月の盆明けに行われる「塩屋湾のウングミ」は県内外に広く知られ、ハーリー競漕のゴール地点である塩屋は、毎年多くの見物客でにぎわいます。

10 屋古【やこ】 方言名:やふ **屋古公民館**

〒905-1312 沖縄県国頭郡大宜味村字屋古17



塩屋湾北岸に位置する集落です。塩屋、田港、白浜と共に、塩屋湾のウングミ行事に関する祭祀に関わりが深く、ウングミの際には田港の次にこの屋古で拝み、塩屋へと移動して行きます。現在、わずかな平地と山地の段々畑を利用して、主にシークワサーが栽培されています。

11 田港【たみなと】 方言名:たんな **田港公民館**

〒905-1314 沖縄県国頭郡大宜味村字田港80 TEL.0980-44-2715



塩屋湾北岸の中段に位置する集落です。近隣の集落の中で、西隣りの屋古と共に最も古い集落とされています。両集落は、塩屋湾のウングミ行事を代表とする祭祀の関わりが深く、また過去には併合されていたため、ヤフ・タンナと併称されていました。

12 押川【おしかわ】 方言名:うしか **押川公民館**

〒905-1313 沖縄県国頭郡大宜味村字押川1156 TEL.0980-44-2460



大保川河口から北に3kmほどあがった山間にある集落です。標高は100mで、高い山に囲まれたわずかな谷あい、約1kmにわたる範囲で家々が散在しています。1900年頃に大宜味、越來、高嶺の人々が藍を栽培するために開墾を始め、その後、本部、今帰仁、羽地の人々が入植しました。

13 大保【たいほ】 方言名:てーふ **大保公民館**

〒905-1315 沖縄県国頭郡大宜味村字大保1-17



大保は塩屋湾の最奥部に位置し、東村に接しています。18世紀後半に那覇、首里、泊などから塩田を求め移住した人々が開拓したと言われており、戦前は薪や山原竹が那覇や旧羽地村の仲尾次などへ交易されていたそうです。

14 白浜【しらはま】 方言名:とうぬがー **白浜公民館**

〒905-1316 沖縄県国頭郡大宜味村字白浜146



塩屋湾に槍のように突き出た佐場崎。その西側の付け根に白浜があります。もとは渡野喜屋(とのきや/トヌガー)と呼ばれていましたが、戦後、1946年に小字名であった白浜に改称されました。

15 宮城【みやぎ】 方言名:まーぐしく **宮城公民館**

〒905-1319 沖縄県国頭郡大宜味村宮城10



塩屋湾の入口に魚のエイが浮遊するような形の小島が宮城島です。18世紀中頃、首里などから人々が移住してきて集落ができました。戦前しばらくは製塩が盛んに行われていたそうです。宮城橋、塩屋大橋が架かって今でこそ交通の便がありますが、昔は渡し船で海を渡る離島でした。

16 江洲【えす】 方言名:いしぶろー **江洲公民館**

〒905-1317 沖縄県国頭郡大宜味村字白浜442 TEL.0980-50-5026



江洲は1959年に琉球政府の計画で入植した新開拓集落です。地番は大部分が白浜に属しているのですが、別名で江洲大堂(イシブロー)「江洲の大きな平地」と呼ばれていたため、その江洲の部分の字名として採用しました。

17 津波【つは】 方言名:ちふぁ **津波公民館**

〒9051318 沖縄県国頭郡大宜味村字津波620 TEL.0980-44-2518



大宜味村の南端に位置する集落です。以前は平南にも集落がありましたが、大波の影響で住民は津波に移動したと伝えられています。津波の神アサギは内部が二分し、津波アサギ、平南アサギと呼び分けられ、合併村の痕跡を見ることが出来ます。



17 大宜味村の行政区紹介

「豊かで住みよい、明るく健康で、文化的な村」を目指す大宜味村、各地区の特徴を紹介します。

3 喜如嘉【きじょか】 方言名:きざは **喜如嘉公民館**

〒905-1303 沖縄県国頭郡大宜味村字喜如嘉777-1 TEL.0980-44-3809



大宜味村の北部に位置する集落で「芭蕉布の里」として知られています。集落は国道から謝名城に至る南側の山沿いに位置し、沖縄らしい佇まいが残っています。かつては美田地帯で知られたことから、地元では今でも喜如嘉タープク(田圃)と呼ばれ親しまれています。

4 饒波【ぬうは】 方言名:ぬうふぁ **饒波公民館**

〒905-1304 沖縄県国頭郡大宜味村字饒波22



大宜味村の中北部に位置する集落です。戦前までは喜如嘉と同じく芭蕉布を生産していましたが、現在は原料の栽培のみ行われています。また、新材の販売や炭焼きも行われ、古くは饒波川の入り江まで船が入り、それらの積み出しで賑わっていたそうです。

6 大宜味【おおぎみ】 方言名:いぎみ **大宜味公民館**

〒905-1306 沖縄県国頭郡大宜味村字大宜味189



大宜味村の中央部に位置する集落で、海辺にある本集落と、その背後の山中にある喜納(キンナー)という集落からなります。明治末期、村役場が塩屋から大宜味へ移転して村行政の中心となりましたが、現在、役場は大宜味から分離してできた大兼久の地番にあります。

7 根路銘【ねろめ】 方言名:にみ **根路銘公民館**

〒905-1307 沖縄県国頭郡大宜味村字根路銘61



大宜味村の中央部に位置する集落です。集落内の南側の山道から登った山頂にある上原集落は、昭和初期まで根路銘の一集落でした。分離独立したあとも根路銘上原と呼ばれ、ムラの主要な年中行事のいくつかと一緒に執り行われており、現在も深い関係が続いています。

ウナガミ

国指定重要無形
民俗文化財

塩屋湾のウナガミ

約500年の歴史があるウナガミ(海神祭)は五穀豊穰、無病息災を祈願する祭りで、田港・屋古・塩屋・白浜・大保・押川・江洲の湾内7カ字が共同で旧盆明けの初亥の日に行われます。主に女性中心の祭祀で、祭り前夜に神事を司る“ハミンチュ(神人)”がニライカナイの来訪神を迎える祈願から祭りは始まります。祭りの一番の見所はウガンバーリー(船漕ぎ競争)。女性は腰まで海水につかり太鼓を打ち鳴らしながら、懸命にゴール目指して漕ぐ。男性を迎える姿は圧巻で、熱気は最高潮に達します。地域の人たちが敬虔な気持ちで形を変えずに受け継いできたことが認められ、1997年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。



田港(タンナ)アサギ

※アサギとは神様が降りてくるとされる神聖な場所
ウナガミの前夜に神事を司るハミンチュ(神人)が神様を迎える神事「ウナケ(御迎え)」を行います。翌朝、ハミンチュはタンナ川にて身を清め、田港のアサギにてウナガミの安全や豊漁豊作、健康を祈願して神様に始まりを告げた後、参拝者にお神酒と餅を配り、神様の来訪を喜び分かち合います。



田港アサギでの神事を終えると、太鼓と共に又ザイ(二股の鉞)をもった4人のシマンホー(神人の世話役の男性)の先導で隣ムラの屋古(屋古アサギ)へ向かいます。



屋古(ヤフ)アサギ

※アサギとは神様が降りてくるとされる神聖な場所
屋古アサギの広場中心にクモの巣に似たわらで編んだクムと呼ばれる日よけが張られ、柱の中心に座ったシマンホー(祭祀を担当する男性)の周りを神人(ハミンチュ)が「ヨンコイ、ヨンコイ」と唱えながら大弓を左上に突き上げ時計回りに回ります。世果報(ゆがふ)を願う儀式だといわれていますが、亥の日に行われることから弓矢で猪を狩る様子を表しているのではないかという説もあります。



兼久浜ナガリ

爬龍船競漕を終えるとハミンチュ(神人)一行は兼久浜(ハニクバマ)のナガリでニレー(西の海)向かって豊作豊漁を祈願するお祈りをします。



今日でも農作物を荒らす猪の対応に苦慮する農家も多い。

1 大宜味村の猪垣(ヤマシガキ)

第1号村指定文化財(史跡)【平成17年10月1日指定】

大宜味村全域を囲い込む猪垣は、「十里の長城」とも呼ばれ、畑へのヤマシシの侵入は、主食であるイモや他の作物を失うことにもなり、農民の生存にかかわることだけに、猪垣をもってヤマシシの侵入を防ぐことは村民の生きるための戦いでもあった。



2 塩屋ウフンチャのハスノハギリ

第2号村指定文化財(記念物)【平成19年3月1日指定】

塩屋区のウフンチャ墓地区内に生育しているハスノハギリは、茎の下部で4本に分かれ、胸高直径がそれぞれ116cm、101cm、82cm、42cmで樹高は13.5mである。ハスノハギリは海岸付近に生育する性質があり、このことから昔はこの樹木が生育している付近が砂浜だったとが伺える。



3 塩屋湾のウンガミ

国指定重要無形民俗文化財(無形民俗)【平成9年12月15日指定】

毎年旧盆明けの亥の日に行われる。海神祭は古い時代に北部の村々で起こり、語り伝えられてきたが、時代が進むにつれてその影が薄らぎつつある現在、塩屋では昔そのままの姿を残して盛大に行われている。海と山に囲まれ、そこから生活の糧を得ていたことから、海の幸、山の幸を祈願する豊作・豊漁(獵)祭である。



4 田港御願の植物群落

国指定天然記念物(記念物)【昭和47年5月15日指定】

塩屋湾に面し、田港区の東側にある田港御願の拝所林。あまり人為的な干渉を受けることなく今日まで保護されてきたため、沖縄における古世期石灰岩地域の代表的な植生とみなされている。指定地域内の植物調査結果によると85科242種が記録されている。



5 喜如嘉板敷海岸の板干瀬

県指定天然記念物(記念物)【昭和49年2月22日指定】

喜如嘉区の南海岸の波内ち際にあり、炭酸カルシウムのセメント作用により、砂・礫・岩石等が固結された海浜性の岩石。板干瀬はビーチロックともいい、一般に熱帯から亜熱帯地域の海岸に見られ、海側にやや傾斜し波状に発達する。県内に大小数多くあるが大規模なものは本地域以外に国頭村謝敷、大宜味村津波などがある。



上城にある「神アサギ」。謝名城のウンガミ(海神祭)で祭事を行う神聖な場所。



6 上城(ウイグシク)・根謝銘城跡(ネジャメグスク)

根謝銘城は、一名上城とも称し、「往昔中山英祖王の後裔大宜味按司の居城なりしといふ」(『国頭郡志』)。また、民間伝承によると築城途上に外敵の攻撃を受け、城壁を築く余裕もなく廃城となったと伝えられている。

大宜味村の誇る自然や歴史、生活文化の中から生まれた貴重な文化遺産を守り、継承しています。

文化財

大宜味村の



7 喜如嘉の芭蕉布

国指定重要無形文化財(無形工芸技術)

【昭和49年4月20日指定】

芭蕉布は、糸芭蕉の繊維を糸にして織った布で、沖縄・奄美諸島においては古くから身分の上下を問わず織られ、着用された衣料である。戦後すたれつつあった芭蕉布織は、平良敏子(人間国宝)さんをはじめとする村の婦人たちにより伝統工芸として復活した。喜如嘉の芭蕉布については、喜如嘉区にある芭蕉布会館などで実際に作業している様子を見学することができる。



8 大宜味御嶽のピロウ群落

県指定天然記念物(記念物)【昭和49年2月22日指定】

大宜味小学校の北側を流れる川に沿って位置し、本島の海岸斜面に成林するピロウ群落の代表的なもの。県下でもピロウ群落は、海岸斜面の潮風の影響の強い立地に成林し、伊江島、南大東島・与那国島などによく発達している。沖縄本島ではあまり発達が見られず、本群落が最大である。



9 大宜味村役場旧庁舎

国指定重要文化財(建造物)【平成29年2月23日指定】

県内でも古く本格的な鉄筋コンクリートの建築物で、大正14年に竣工。沖縄の気候・風土を十分考慮に入れ、特に台風による風圧を軽減するため、八角の平面形状を取り入れる等、優れた特徴を有している。大正時代のコンクリート建築物としては県内に現存する唯一のもので、鉄筋コンクリート造技術の導入や、構造法の歴史を知る上で貴重とされている。

大宜味村の まつり Festival 【イベント・伝統行事】

活力溢れるステージに
みんなの笑顔が溢れます。



大宜味村夏まつり 8月

8月の第2土・日に行われ、保育所児らによる踊りや老人会・婦人会の芸能、ハーリー大会、またヒージャー(やぎ)争奪綱引き大会など、ユニークなプログラムもあり、まつりのクライマックスは大宜味村青年会によるエイサーと花火で来場者みんなが一緒に盛り上がる最大の見せ場となっています。



産業まつり 1月

大宜味村自慢の特産品を紹介する展示・販売コーナーやシークワサーを活用したコンクール、またおおぎまるごとツーリズム協会のガイドによる山登りツアーなど盛りだくさんの催し物があり多くの親子連れで賑わうお祭りです。



元気の源はやさしいみんなのエール。

4月

塩屋湾一周トリムマラソン大会

風光明媚な塩屋湾を一周する3キロ・9キロ・16.7キロのトリムマラソンで、沿道の温かい応援の中、子どもからお年寄りまで楽しめるイベントです。



親子一緒に安心して参加できるマラソン大会。温かい沿道の応援に感謝します。





豊年踊り・海神祭 8月~10月

豊作や健康祈願を神や先祖に祈る伝統行事。2年に1度行われ、地域それぞれの伝統芸能が演じられます。村民が楽しみにしている行事でもあり、その芸達者ぶりには驚かされます。



大人も子供もみんなが主役。
強い絆で結ばれた大宜味人。
みんなで作り上げ、みんなで守り、みんなで楽しむ。
イベントも伝統行事も一生懸命に取り組みます。



7月 大保ダムまつり

大保川上流に位置し、県内で2番目の規模を誇る大保ダム。豊かな自然を満喫できる散策ポイントとしても人気があります。森と湖に親しみ、心身をリフレッシュするとともに、森林やダム、河川などの大切さについて、関心を高め理解を深めていただくため、開催されています。



7月 キャンدلナイトinサーベイ(白浜ナイトキャンドル)

塩屋湾を中心に開催され、自然について学びながら、ダム事業のPRと村が取り組んでいる水源地域ビジョンとエコツーリズムの推進を図り、湾内外にキャンドルを灯し、沖縄八景と言われた景勝地の認知度を高め、湾内地域の活性化をめざしています。



大宜味は多くの工芸家が暮らす里でもあります。



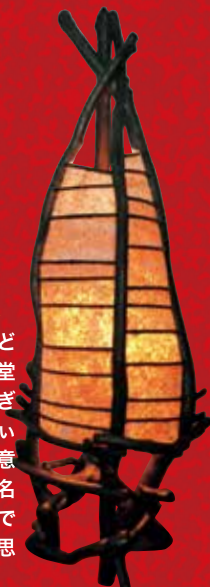
10月 老人婦人合同スポーツ大会

懐かしい縄ぬい競争や仮装などのありんくりりレー、恋人さがしなど力より技や面白さ(!?)が光る競技が多く、その笑顔の中に子供から老人まで村人の「絆」を感じられ、見ていると楽しく心が優しくなれます。



4月 いぎみていくま展

芭蕉布、陶器、漆器、木工など村内の工芸家の作品を一堂に集めた展示即売展。「いぎみ」は大宜味の呼び名。「ていくま」は手先が器用な事を意味し、「いぎみていくま」の名称には出展者の「手づくりで心をこめてつくる」という思いが込められています。





「4000坪の畑全部がシークワーサーなので収穫がとにかく大変！」と話す小橋川弘さん



青切りシークワーサー&クガニ

大宜味村の主力特産品。青々とした青切りシークワーサーは、酸味が強く、ジュースや調味料として高い人気を誇っています。そして、冬になると「クガニ」と呼ばれる、熟して黄色くなったシークワーサーは果実をそのまま食べられるのが特徴で、酸味と甘みのバランスが、絶妙と評判です。

■大宜味村産業振興課
TEL:0980-44-3232



大宜味自慢

大宜味村の豊かな自然の中で生まれた特産品の数々
長寿の里、芭蕉布の里、シークワーサーの里、ぶながやの里より、
心を込めた村民自慢の特産品はいかが！



元気野菜からの贈り物 笑味の店オリジナル商品

特産品のシークワーサー果汁を原料にした調味料の「笑味タレ」や、3種の「ドレッシング」「ふりかけ」「笑味の麺」などの加工品「畑(ふる)シリーズ」。金城笑子さんが長寿の秘訣として大宜味の元気なおばあたちの食習慣を見習い、食生活の中に取り入れることで、島野菜を伝統食材として次世代へ継承し、守り伝えたい思いで考案。地域ブランドとして観光客にも人気があります。

■笑味の店
TEL:0980-44-3220 <http://eminomise.com/>



大宜味村の泡盛 やんばる酒造株式会社

創業は昭和25年、集落共有の酒造所として操業。「泡盛造りのこだわりで、一番にあげたいのは『水』の旨さです」というだけあって、田嘉里川の上流からひいている自然水はまるやかで甘味があり、その水でそれぞれの銘柄の個性を引き出しています。「旨い酒造りは地域の皆様に愛されてこそ」をモットーに日々おいしい泡盛造りを目指しており、泡盛品評会では数々の賞を受賞するなど、酒づくりのウマさが評価されています。

やんばる酒造株式会社 TEL:0980-44-3297



大宜味産和そば(日本蕎麦) 「江洲の花」の中島敬さん

大宜味村の新たな観光資源として今最も注目されているのが和そば(日本蕎麦)。大宜味村で収穫された蕎麦粉を使用しており、香りがよくおいしく仕上がっていると評判。またお茶などの加工品としても多彩な展開が可能なので、これからが楽しみな観光資源。現在「江洲の花」、「美ゆうびゅう」の2店舗で風味豊かな蕎麦を味わえます。

■峠の麺処「江洲の花」 TEL:0980-43-3040



押川シークワーサー

自然豊かな大宜味村押川産のみを使用している(有)照屋農産。「その味わいはストレートで飲んでいただければ分かります！」という代表の照屋信安さん。製法により苦みと酸味を抑えたバランスのいい優しい味わいは、ハチミツや砂糖を少々入れておいしくいただけます。また、原液は泡盛やカクテルに入れたり、焼き魚や肉料理にかけたりと素材の味を引き立てます。

■(有)照屋農産 TEL:0980-52-3990



耕作放棄地を利用したそば栽培。(コンバインによるそばの収穫作業)



平成27年4月26日、村内の陶芸家である國場陶芸、シーサー陶芸大海、陶藝玉城、菅原工房の4工房でつくる村陶器事業協同組合の「大宜味窯窯開き」を開催。年3回ほど焼入れが行なわれています。

大宜味村は工芸家憧れの地 想像力をかき立てる風土が大宜味にはある。

かつて大宜味村は優秀な大工が住む村として知られ、それを支えるように女性は芭蕉布を織って生活を支えた歴史がありました。その労力と時間を惜しまない丁寧な手仕事は現在の、芭蕉布をはじめ、陶芸や漆芸、木工芸へ受け継がれ、今日では多くの工芸家が工房を構えています。その集大成として毎年4月「いぎみていくま展」では「手づくりで心をこめてつくる」をコンセプトに展示即売会を開催しています。

芭蕉布は博物館の中の工芸品ではない、 生活の中で使われる、生きた工芸なのです。



芭蕉布オリジナル商品

「芭蕉布は博物館の中にある工芸品ではないのです。今の生活になじんだ工夫をしなければいけません」と芭蕉布会館の平良美恵子理事長は話します。デザインにも工夫をこらしたバックや財布、テーブルセンター、コサージュ、携帯電話ケース等のオリジナル商品が多くあり、いずれも時間をかけた丁寧な仕上がりになっています。

■芭蕉布会館 TEL:0980-44-3033



長寿村の恵み 大宜味産の茶

大宜味産の茶畑を復活

戦前から戦後にかけて盛んだった村内のお茶作りを「復活」させたのが山城勝則さん。村内のお年寄りから「大宜味のお茶はおいしかった」と聞いたのがきっかけでした。長寿の里・大宜味村に恥じない、健康的なお茶を目指し、EMを混ぜて作った土と無農薬栽培にこだわり、年々収穫量も増えています。「今後は、仲間を増やして、大宜味の長寿のお茶を全国にPRしたい」と意欲をみせます。

■山城茶園 TEL:0980-44-3967



陶芸家の大海陽一さんは那覇の壺屋で修行を積み、自然豊かな環境に憧れて、奥さんの故郷大宜味に創作の拠点を移し、二人三脚で創作に励んでいます。

■シーサー陶芸大海 TEL:0980-44-2424



「長寿の里」からの贈り物 シークワーサーみつ

大宜味の特産品を活用した加工品の開発にこだわり、豊かな自然、温かい人情、長寿など大宜味の魅力を内外にアピールする活動をしている大宜味村農山漁村生活研究会から誕生したのが『シークワーサーみつ』。全て村産のシークワーサー果汁100%と砂糖だけで水を使用せずじっくりと煮つめており、ジュースやカキ氷、いろいろな料理の隠し味に最適。

■大宜味村農山漁村生活研究会
TEL:090-1944-0874

無添加
無着色



月桃100%へのこだわり 月桃スキンケア商品

独自の特許製法で水を一滴も使わず、月桃をまるごと(花・葉・茎)搾汁した天然成分だけで創る丸海ぎあらの月桃水。100%月桃だけの有機成分を蒸留して抽出した丸海ぎあらの月桃水を使った商品は、シミ・そばかすなど美容効果が期待できます。また、沖縄在来種の月桃を使い、土壌はJAS認定の土地で有機農法にて栽培するなど、消費者が安心して使用できる商品づくりにこだわがあります。

■株式会社 丸海ぎあら TEL:0980-44-2966



おきなわのぬちめじ 沖縄の命水 七滝の水 (ななたきのみず)

非加熱殺菌なので天然水本来の味

『七滝の水』は地下深く眠る天然深層水を汲み上げ、濾過フィルターで除菌後、原水の特徴を損なわない独特の方法でパック。天然ミネラル成分を多く含み、安心していただけるお水になっています。喜如嘉の聖域に水路が七回曲がることから「七滝」と名づけられた縁起のよい滝があり、「七滝の水」はこの聖なる滝の名から名づけられました。

■沖縄健康社 TEL:0980-44-3683

赤土だいこん

BIGなサイズと甘みが自慢 沖縄一の赤土大根産地を目指す!

沖縄北部特有の酸性度のある赤土でつくられる『赤土大根』は甘みがあり、通常の大根より約2倍の大きさになります。出荷時期の12月から5月には県外からも問合せがあるほど人気があり、村あげて大宜味ブランド化を目標に取り組んでいます。

■農村活性化センター TEL:0980-44-3048





教育・歴史文化の 輝く健康長寿村

本村では、平成28年に「大宜味村第5次総合計画」策定し、「教育・歴史文化の輝く健康長寿村」を村の将来像として基本理念に掲げ、この将来像を実現するため、様々な村づくり施策に取り組んでいます。

☑ **豊** かな自然が
生み出す活力ある村づくり
◎産業の振興

☑ **健康長寿**
と子育て・弱者を支える「結」の村づくり
◎保健・福祉の充実

☑ **歴史** に学び
人を育む文化の村づくり
◎教育・歴史文化の振興

☑ **安全・安心**
な住みよい村づくり
◎生活環境の整備

大宜味村
シーフワサーの里

大宜味村の未来像 重点施策



本村の将来像「教育・歴史文化の輝く健康長寿村」を実現していくため、今後10年間に重点的に推進する事業として、下記の3つを設定する。

- ① 未来を担う人財の育成「人材を以て資源と為す」
- ② 公有財産の活用による産業の活性化
- ③ 地域資源を活かした滞在型観光の推進



未来を担う人財の育成 「人材を以て資源と為す」

本村には、「人材を以て資源と為す」という村是があり、昔から村民の多くが、自分の能力を引き出す可能性への挑戦をいとわない、チャレンジ精神が旺盛な進取の気性に富む村民気質があり、各分野で活躍する人材を輩出してきた。

少子・高齢化が進む現在においても、将来を担う子ども達の人材育成は本村の重要課題である。子ども一人ひとりの、意欲を育て、個性を尊重し、健康増進に努めるとともに、時代変化へ柔軟に対応でき、先見性に富み、生涯を通じて学び続ける資質や能力の育成が求められている。

そこで、本村においては、幼児児童生徒における人材育成はもとより、生涯学習、歴史・文化における人材育成、伝統工芸における後継者の育成など、産業・経済等各分野においても活躍し、村民一人ひとりが大宜味村を支える人材育成に取り組む。

公有財産の活用による産業の活性化

本村は、山地・丘陵地が多く平地部が極端に少ないため、住宅地や公共施設等の用地が不足してきた。また、集落や公共施設が分散しており、村の中心部的な場を形成することができなかった。そのため、平成19年度に大保ダムの建設に伴う残土を利用して、塩屋湾外海の公有水面を埋め立てて約32.7haの造成地「結の浜」地区を創出した。

現在、すでに村営住宅、村立診療所、企業支援施設、結の浜公園等の整備は完了しており、次いで小学校の統合、中学校の移転に伴い、新しい大宜味小学校、大宜味中学校が建設された。また、分譲地の住宅建設も進み、住宅施設用地の一部は民間賃貸住宅用地として分譲されたところである。今後も土地利用計画にしたがって、それぞれの用地の整備を推進していく。

また、本村には、老朽化した公共施設の移転・建て替え等により、大規模な跡地が発生している。田港に所在する旧国頭地区消防組合大宜味分遣所や旧一心療護園（障害者支援施設）、喜如嘉に所在する旧大宜味村立診療所跡地がそれに該当する。

他にも、少子化・過疎化による児童数の減少から、4小学校の統合移転と中学校校舎等の危険改築に伴い結の浜への移転が行われ、5つの学校跡地が発生している。

そのため、耐用年数の残る施設の転用や、廃止となった施設解体後の跡地の有効かつ効果的な利用を図っていく。学校跡地以外の未利用の土地建物については賃貸や売却も視野に入れ検討し、民間活用により産業の活性化から村民の所得向上と安定した雇用による定住人口増を目指す。

【長寿と癒しの森整備計画イメージ図】



整備が進められている「結の浜」



塩屋湾外海埋立竣工記念碑

地域資源を活かした滞在型観光の推進

本村の自然は76%が山岳地帯の山林に囲まれ、隣接する国頭村、東村とともにやんばる地域一体の豊かな自然環境を形成し、天然記念物に指定されているノグチゲラ等、動植物の貴重な固有種が多く生息する野生生物の宝庫とも言われている。

現在、本村の自然を含む「奄美・琉球」が自然遺産として我が国の世界遺産暫定リストへ記載されることが決定しており、今後、さらなる村の山々とこれらを囲む地域の自然の保全・活用が期待されている。今後は世界自然遺産登録に向け、貴重な自然を保全・継承していくための取り組みを実施していくとともに、長寿と癒しの森整備計画を踏襲しつつ、豊かな自然環境を活かした観光拠点の整備を推進していく。

また、本村には国の重要無形文化財であり、沖縄を代表する伝統工芸品である「喜如嘉の芭蕉布」があり、観光振興にも寄与できる資源であることから、芭蕉布を生産できる人材の養成と、関連団体との連携・協力のもと、「芭蕉布の里」としての認知度向上と受入体制の強化を図り、観光産業としての取り組みを推進していく。

さらに、文化資源である根謝銘グスクは、グスク時代には大宜味按司や国頭按司の居城であったという説があり、また、古琉球時代には国頭間切を支配した国頭按司の拠点であったと考えられている。その後、近世琉球時代には信仰の対象として年中行事で拝まれるようになった。このように、根謝銘グスクは山原の歴史文化を象徴する貴重な文化資源であることから、調査により価値を追究し後世へ継承していくため保存・活用を図る。今後はこれらの貴重な地域資源を活用し、「大宜味型体験滞在観光」の振興を図る。



100%
大宜味産の
日本蕎麦



コンバインによる蕎麦の収穫作業



農業の振興

農業は将来においても本村の基幹産業の一つとして位置づけ、各種課題を解決しつつ時代に即した施策を積極的に展開します。そのため、今後とも生産基盤の充実強化を推進するとともに、遊休地、耕作放棄地の解消を耕土流出防止を図りながら推進します。生産に関しては、まず基盤の整備を図るため、優良農地施設の老朽化による整備保全、農道の路面改良、畑地灌漑事業、農業用排水施設の整備を推進します。また、耕種と畜産の複合化を推進し、地力の維持・向上を図ります。その上にたって基幹作物であるシークワサー・さとうきび・パインアップルの品質向上、安定性に取り組んでいきます。

また、意欲ある農業担い手の育成に努め、安定的な農業経営の確立に向けた農地の確保から面的な農地集積を行い、生産主体の6次産業化へ向けた生産法人の設立等を通して、直販やグリーンツーリズム等を推進します。耕作放棄地対策事業や中間管理機構事業を活用し新規就農者の育成や担い手農家の育成を図ります。さらに、近代化農業へ対応した機械化や農業ITの導入による経営型農業の確立を図ります。



津波でお茶を生産する「山城茶園」



喜如嘉にある株式会社 沖縄県食肉センター大宜味農場

大宜味村
第5次
総合計画

【産業の振興】

豊かな自然が生み出す活力ある村づくり



商工業の振興

商業：共同売店等、集落内商店の経営基盤の強化を図るとともに、村民に対しては村内購買を喚起する方策を講じます。また、商業用拠点地区の形成に向けた取り組みを進めるとともに、既存商店の意識改革を図ります。

工業：製造業に関しては、第一次産業との連携を図り特産品の開発を促進するとともに、村・企業が一体となった製造販売体制を確立します。工芸等については、商品販売に向けた側面支援を行うとともに、「工芸村」づくりを推進することにより観光面での活用、工房間のネットワークを強化し商品開発への支援を行っていきます。また、植物資源や畜産廃棄物を活用したバイオマス産業を亜熱帯農山村地域における有望産業として位置づけるとともに、大宜味村の豊かな「水資源」を活用し、企業の誘致・導入を図るための条件整備を推進します。



注目される『海ゴヤー』の養殖

見た目は海ぶどうによく似ており芽はコリコリとした歯応えある食感が特徴。ポン酢で食べるのが一般的ですが、パスタやサラダのトッピングにあわせるなど、色んな食べ方が出来ます。



大宜味『民泊体験』
修学旅行をはじめとする団体旅行はもちろん、一般の旅行者にも民泊体験が可能。

観光の振興

本村の豊かな自然環境や文化財・伝統芸能などを活かした魅力ある観光地の形成を目指し、エコツーリズムをはじめとする体験学習等、大宜味村独自の体験滞在型観光の振興を図ります。また、国立公園に指定され今後世界自然遺産登録が予定されていることから、観光客受け入れのための基盤施設を整備を急ぐ必要があり、「やんばる型森林ツーリズム推進体制事業」や「エコツーリズム地域協議会(仮称)」にて施設整備の検討を図ります。合わせて、平成25年度に策定した生物多様性保全活動計画に伴い、生物多様性の保全及び活用を進めていきます。

林業の振興

村森林整備計画に基づき、森林の保全に努め、健康的な森林環境を構築するための事業を実施し、現有する多面的機能の維持・向上を図りながら循環型林業の仕組み作りを推進していきます。また、平成30年度以降に世界自然遺産登録を目指すことから、平成27年度より沖縄県森林管理課による「やんばる型森林ツーリズム推進体制事業」がスタートしており、今後3年間で、利用ルールをはじめ、森林ツーリズムにおけるツアープログラムの作成、村内の各団体で結成する新林ツーリズム協議会(仮称)をはじめ、森林ツーリズム全般の体制構築に努めます。



塩屋大橋に隣接する塩屋漁港

水産業の振興

養殖漁業の拠点産地化を推進することにより、生産技術、経営指導及び生産、出荷体制の整備を行い、産地ブランドの確立により漁業経営の安定向上を図ります。漁港については、補助事業を活用し整備を図ります。また、村内の学校・観光関連事業者等と連携しブルーツーリズム事業の拡大を図っていきます。



専門のガイドより自然や動植物について学びながら、山や川を散策します。

畜産業の振興

家畜の疾病対策及び地域とのより良い関係を築くとともに、環境保全対策に努める飼育農家の育成を図ります。





おばあちゃんと一緒に長寿食を作るの楽しいな〜



保健医療施策の充実

市民の健康維持と医療確保を図る

市民が安心できる診療・治療の充実を図ります。また、市民の健康維持と適切な医療確保を図るため、今後とも住民健診を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努めます。また、在宅医療体制づくりに向けての調整を進めるとともに、保健師等の指導者の増員を図ります。



大宜味村立診療所



大宜味村立歯科診療所

大宜味村
第5次
総合計画

健康長寿と【保健・福祉の充実】 子育て・弱者を支える「結」の村づくり

健康福祉の村づくりの推進

健康づくり・ ユイマールコミュニティ形成の推進

健康で長生きし、人生を謳歌できる「長寿の里」を具現化するため、福祉施策を推進します。また、認定こども園への移行も含めた検討を行い、地域のニーズに合った、安全・安心な児童福祉施策を推進します。



“地域包括支援センター”の皆さんによるフットマッサージ

高齢者福祉の充実

高齢者が健康な生活をおくることができる福祉施策の推進

高齢者が健康な生活を送ることができるような福祉施策の推進、住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて参加やその場が継続的に拡大していくような地域づくりの推進、「大宜味村いきいきシルバープラン」に基づき、健康長寿を伸ばし、介護予防を充実させる地域支援事業の推進を図ります。



国民健康保険の充実

健全な保険制度活用を図る

国民健康保険事業の健全運営を図るため、収納率の向上、医療費の適正化を行うとともに、保健・医療・福祉との連携による市民の健康づくりを推進します。また、収納率向上委員会等と連携し収納率の向上を目指していきます。



村内外にも出荷される見事な門松。



児童・母子(父子)福祉の充実

地域との連携を強めた子育てネットワークの形成

少子化、児童虐待など児童を取り巻く様々な社会的問題に対処するため、地域との連携を強め子育てネットワークの形成を図ります。また、全ての児童の養育が十分に行われるよう、児童手当(子ども手当)等の適正支給と積極的な活用を促進します。母子・父子寡婦世帯の実態把握を行い、母子・父子寡婦会への加入を推進するとともに、経済的・精神的支援拡充、生活基盤の安定化を図りその自立を促します。



年末は恒例の門松作り!

障害者福祉の充実

障害者が積極的に社会活動へ参加できる環境づくり

ボランティア組織の育成やバリアフリーに配慮した施設整備、障害者の就業の場を確保することや障害者に対する各種制度の運用など日常生活の安定化を推進します。また、福祉全般の計画を進める上では、個々のケアプラン作成や関係機関等との連携ができるよう専門知識を持った人材の育成、体制づくりを進めます。



「人材を以て資源と為す」を基本理念に郷土の自然と文化に誇りをもち、心豊かで創造性、国際性に富む積極進取な人材の育成と生涯学習の振興を目指しています。



ALT (外国人英語指導助手)による授業

学校教育の振興

基本的な生活習慣、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体を育成

幼稚園においては幼児期教育の重要性にかんがみ幼児が健やかに育つ環境の整備に努め、入園を希望する満4歳からの就園を目標に、幼稚園教育の条件整備を推進します。小学校・中学校においては「心豊かなたくましい児童・生徒の育成」を目標に、基礎・基本の定着を図り生きる力を育みます。また、個々の「確かな学力」の定着を図り、国際化・情報化社会に貢献できる「大宜味っ子」を育成する施策を展開します。



福島県西会津町の児童生徒と互いの地を訪れ交流を深める「体験の翼」事業を平成5年度から実施しています。

地域文化の振興

文化財の保全・活用、地域文化の継承へ！

本村には、国指定文化財4件、県指定文化財2件、村指定文化財が2件あります。この他に伝統芸能や記念物等が各地域に数多く残されています。これらの文化遺産を後世に正しく伝え、文化財の保存、継承を行うと共に、文化財の調査を行い、村民一人ひとりが文化財のもつ意味を理解し、文化財を愛護し共通認識が図られるよう施策の展開を図ります。



1 豊年祭等で唄われる村ならではの歌詞の内容や、節など先輩から学び受け継ぎます。
2 ウンガミ(海神祭)等の行事を司る神人(ハミンチュ)の継承も大宜味村の大きな課題のひとつとなっています。
3 芭蕉布会館では後継者育成事業として、芭蕉布伝統工芸従事者の研修等が行われています。

大宜味村 第5次 総合計画

歴史に学び人を [教育・歴史文化の振興] 育む文化の村づくり



生涯学習の振興

創造性、国際性に富む 村民の育成

村民の多様な生涯学習ニーズに対応し、「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」学べる自主的、主体的な生涯学習を推進するため、社会教育、社会体育、芸術文化、文化財の各分野において学習機会の提供・拡充、さらには社会教育施設の整備を図ります。



喜如嘉タープ(湿田)で毎日始業前の早朝と放課後に野鳥観察に取り組む大宜味村立喜如嘉小学校の児童たち。



大宜味村の子供から大人までの作品が集う「おおぎみ展」文化展の中では県内で一番長く、歴史があります。



村老連ゲートボール大会



村陸上競技大会



塩屋湾一周トリムマラソン

スポーツ・レクリエーションの充実 生涯スポーツの普及・促進を図ります

スポーツ・レクリエーション活動の振興については、長期展望のもとに中期、短期の実効性の高い施策を展開していきます。また、各種体育行事については、今後新たに必要とする行事や、各種行事の統合も検討し、取組方針を定めていきます。



津波老人会



大宜味村の文化・芸能活動の推進を目的に、子供からお年寄りまで様々な演目を披露する「しまんちゅ芸能の夕べ」。家族や知人の晴れ舞台を見ようと毎年大勢の観客で賑わいます。

仲井間民謡研究会

大宜味村
第5次
総合計画

【生活環境の整備】

安全・安心な住みよい村づくり



大保ダムまつり / 防災フェアでの消火体験

安心な村づくり

誰もが、日々の生活を安全で安心して暮らせるように、環境整備と防災対策を進め、防災機能強化の強化や消防、救急・救助体制の充実を図ります。自然災害による被害の発生を最小限に抑え、事故や犯罪の無い、全ての村民が安心して暮らせる村づくりに努めます。

また、交通事故や犯罪から村民を守るため、道路環境の改善や適切な情報提供に努めるとともに、交通安全や防犯に対する村民意識の高揚を図ります。



防災訓練 / 要援護者を避難させる避難誘導員



大宜味村津波浄水場



大宜味浄化センター(結の浜)



周辺の環境に配慮しながら建設された大保ダム。建設時の土砂は結の浜の埋立てに利用されました。

安全で快適なむらづくり

人と自然に優しく、誰もが、安心かつ快適に生活できる村づくりに取り組みます。

自然条件や社会条件を踏まえ、生活の利便性を維持向上するため生活道路及び交通体系の維持整備に努め、安全・快適な道路環境づくり、さらに将来に向けた高齢化社会に対応すべく環境整備を推進します。

また、快適な生活環境を確保するために、安全で良質な水を安定的・効率的に供給する水道施設の整備とともに生活環境の改善と公共用水域の環境安全のため下水道の加入促進及び合併浄化槽への転換促進を図ります。また、環境意識の啓発とゴミの減量化・再利用、ゴミの分別収集の徹底や資源ごみ回収を奨励し、「リデュース・リユース・リサイクル」に基づいた3Rを推進していくために、村民・事業者・行政の3者が適切な役割分担と協働により「循環型社会」の構築を図ります。



ビーチクリーン活動(根路銘海岸)



林道に不法投棄されたゴミの撤去作業



村を季節の花でいっぱいしたいと取り組む「田嘉里お助け隊」による環境美化活動。



失われたマングローブを塩屋湾に取り戻そうと、白浜区や大保区ではマングローブの植樹活動も行われています。



シークワサーやツバキの植栽活動



インターネットを利用した授業風景(大宜味中)

情報通信の整備 高速インターネットの利用促進

村内多くの地域で無線による高速インターネットを利用することが可能となり、これにより都市部との情報通信格差が大きく改善され、各世帯での余暇活動の充実、個人・法人経営者の企業活動の迅速化が図られました。今後は更なる利用促進を図ることにより、若年層の定住化による過疎対策、情報産業の立地促進などの産業振興に大きく寄与するものと考えております。



道ゆく車に大宜味村特産シークワサーとチラシを配りながら交通安全をPR



大宜味村の発展の中核の一つとして期待される『結の浜』



村民と共に新しいむらづくりの風をおこしたい。



村民の声を反映させた村づくりをめざして。

行政

大宜味村は、平成28年に「教育・歴史文化の輝く健康長寿村」を目指し、第5次総合計画をスタートさせました。地方分権化が進展する中、少子高齢化、教育、福祉、環境問題など複雑多様化する地域課題に対応しながら、村民がいきいき輝き、安心して暮らすことができるむらづくりに取り組んでいます。

また、村民参加の開かれた村政を目指し、「広報大宜味」などを通して行政情報を提供・公開するとともに、行財政改革を推進しながら村民サービスの向上に努めていきます。



村長 宮城功光



副村長 島袋幸俊



教育長 米須邦雄



広報大宜味

村行政や地域の情報を分かりやすく紹介した広報誌です。また、村内のイベントや暮らしに役立つ情報なども掲載されています。

議会

村議会は、村民の代表である10人の議員によって構成され、年4回の定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があります。また本会議のほか、より専門的に審議を行うため総務・経済建設の2つの常任委員会・広報委員会が設けられ、村民の声を村政に反映させるとともに、条例や予算など重要施策を審議決定していく村の意志決定機関として重要な役割を担っています。



議長 平良嗣男



副議長 安里重和



村議会10名の有志
「健康長寿のいきいき輝く文化の村」を基本理念に、村民がいつまでも安心して暮らせる村、明るく活力ある村を目指しております。

大宜味村

資料編

大宜味村の誇りを
世界に広げたい。
未来につなげたい。

自然と共に生き、活かされて、
豊かな文化を育む大宜味村。
村民の心がひとつになって、
夢と希望に溢れた未来を創ります。



大宜味村歌

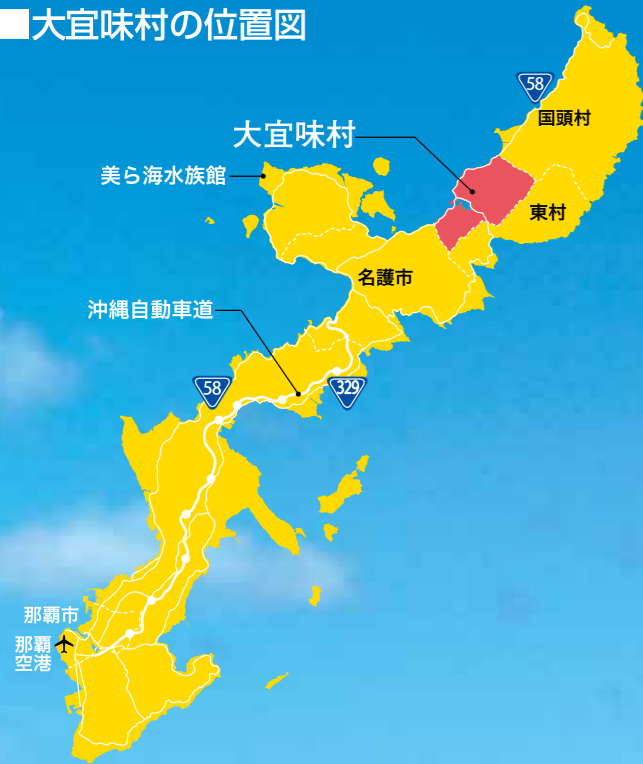
作詞 平田 嗣永
作曲 伊志嶺 朝次

- 一、東支那海 海蒼く
黒汐岸に 寄るところ
緑の山に 囲まれて
流れる清水 汲みて飲む
あわが大宜味は ここにあり
- 二、鈴なるみかん 黄金色
その名も高き 糸芭蕉
機織る村の 乙女らの
情けは深く 語り草
あわが大宜味は 豊かなり
- 三、塩屋の橋に 陽は映えて
建設の 槌音高く
文化の花の 咲くところ
望みあふれる 理想郷
あわが大宜味の 誇りなり
- 四、生気みなぎる その中で
平和な村を 築くよう
われら進まん 一筋に
行こうよみんな まっしぐら
あわが大宜味に 光りあり



大宜味村の概要

■大宜味村の位置図



■位置・地勢等

面積 63.55km²/人口密度 49.7 人/km²
隣接自治体/名護市・国頭村・東村

本村は沖縄本島北西部、北緯 26°36'～26°43'、東経 128°5'～128°12'の間に位置しており、県都那覇市から北に約 87km、北部圏の中心部である名護市からは約 22km の距離にあります。

西は東シナ海に面し、東は沖縄本島を縦に二分する脊梁山地を境として東村に接し、北は田嘉里川をもって国頭村に、また南は山岳帯の分水嶺をもって名護市に接しており、東西 8km、南北 13.3km、総面積 63.55 平方キロメートルの県内第 9 番目の広さです。

本村の総面積の約 76% は森林で、ほぼ中央に標高 300m 内外の山々が連なっており、その山々を源として大保川（延長 12km）をはじめ大小 16 の河川が東シナ海にそそいでいます。低地は極めて少ないものの、海岸に接する形でそそり立つ急傾斜地の奥には標高 150～200m の広い段丘面が発達しており、古来ここに開墾地を求めています。

海岸にはさんご礁が発達し、内陸の環境保護に大きな役割を果たしています。

また大保川の河口部には内海の形を成す塩屋湾があり、マリンスポーツや養殖の格好の場となっています。

土壌は、古期石灰岩からなるネクマチチ岳周辺を除いて PH4 前後の強酸性土壌であり、農作物の種類を限定する要因となっています。

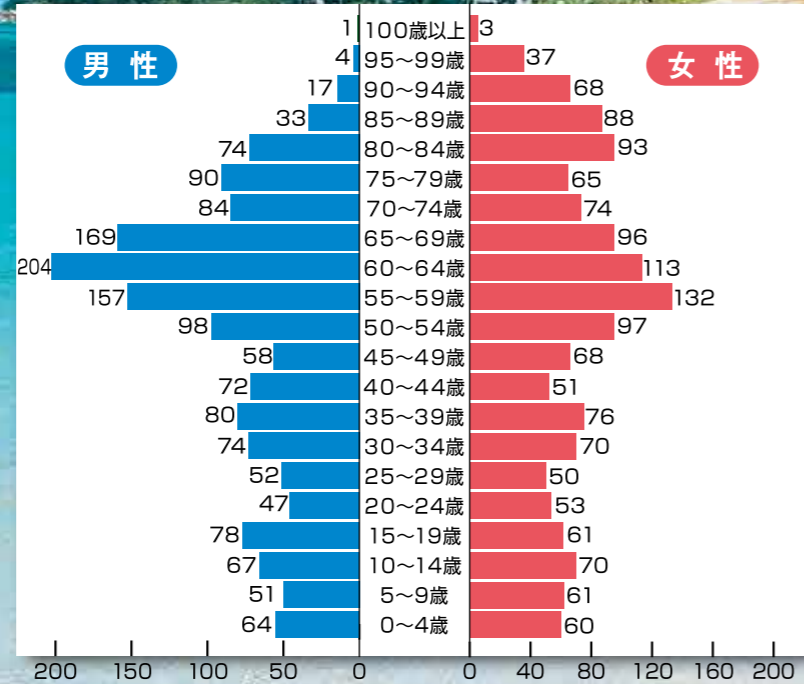
人口

■行政区別の人口 (平成29年2月28日現在)

行政区	世帯数	男性	女性	総人口
田嘉里	137	139	148	287
謝名城	97	100	84	184
喜如嘉	208	207	204	411
饒波	48	55	41	96
大兼久	59	58	60	118
大宜味	60	75	69	144
根路銘	75	77	80	157
上原	32	35	24	59
塩屋	262	295	286	581
屋古	47	56	59	115
田港	54	58	33	91
押川	41	33	24	57
大保	54	47	50	97
白浜	20	14	11	25
宮城	49	53	49	102
津波	348	267	239	506
江洲	64	75	55	130
合計	1,655	1,644	1,516	3,160

住民基本台帳

■年齢別人口構成 資料:平成27年国勢調査



■年齢3区分別人口構成

資料:平成27年国勢調査

区分	0～14歳	15～64歳	65歳以上	全体
平成2年	666 (19.0%)	1,900 (54.1%)	947 (27.0%)	3,513
平成7年	652 (19.0%)	1,837 (53.4%)	948 (27.6%)	3,437
平成12年	524 (16.0%)	1,754 (53.5%)	1,003 (30.6%)	3,281
平成17年	426 (12.6%)	1,941 (57.6%)	1,004 (29.9%)	3,371
平成22年	361 (11.2%)	1,867 (58.0%)	993 (30.8%)	3,221
平成27年	373 (12.2%)	1,691 (55.3%)	996 (32.5%)	3,060

教育・子育て

(令和2年8月1日現在)

■おおぞみこども園

園名	年齢別児童数						
	計	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
おおぞみこども園	96	7	14	19	20	20	16

■小学校の概要

学校名	児童数			教員数		
	計	男	女	計	男	女
大宜味小学校	155	82	73	24	7	17

■中学校の概要

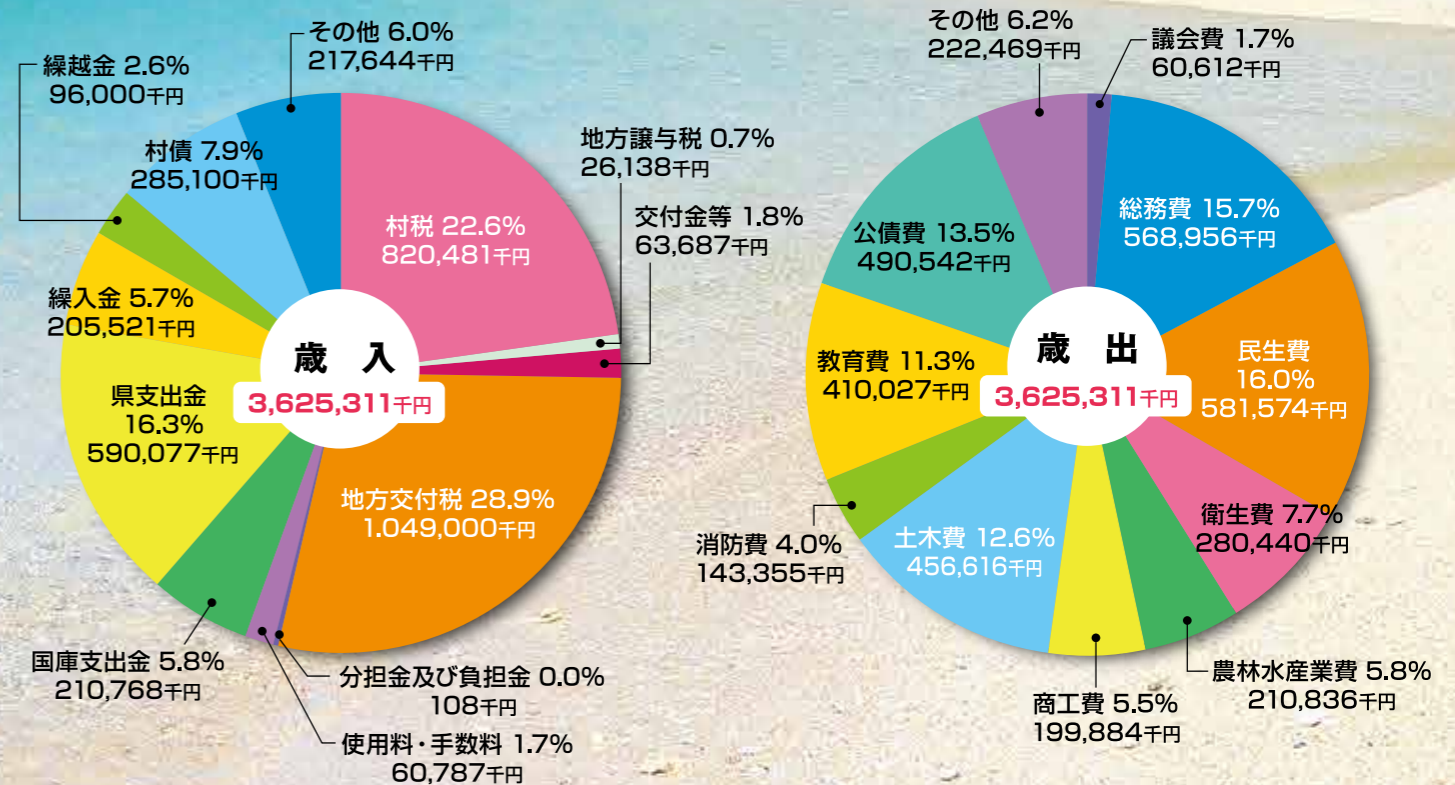
学校名	生徒数			教員数		
	計	男	女	計	男	女
大宜味中学校	67	27	40	20	11	9

■村職員の概要

大宜味村役場	計	一般行政部門								特別行政	公営企業等	
		議会	総務・企画	税務	商工	民政	衛生	農林	土木	教育	水道	その他
	79	2	18	5	3	4	6	7	5	26	2	1

財政

■令和2年度大宜味村一般会計予算 (単位:千円・%)



労働力人口

労働力人口

資料：国勢調査

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成27年	
					構成比(村)	構成比(県)
総人口	3,281	3,371	3,221	3,060	100.0%	100.0%
15歳以上の人口	2,757	2,942	2,860	2,687	87.8%	81.6%
労働力人口	1,323	1,615	1,531	1,496	55.7%	53.8%
就業者数	1,228	1,417	1,271	1,384	92.5%	93.7%
完全失業者数	95	198	260	112	7.5%	—
完全失業率	7.2%	12.3%	17.0%	—		
非労働力人口	1,434	1,327	1,314	1,191	44.3%	34.0%
家事	542	401	401	302	25.4%	32.1%
通学	205	208	169	137	11.5%	18.3%
その他	687	718	744	752	63.1%	49.6%
労働力状態不詳				—	0.0%	12.2%

産業

産業別就業人口の推移

資料：国勢調査

	平成12年		平成17年		平成22年		平成27年	
	就業総数	構成比	就業総数	構成比	就業総数	構成比	就業総数	構成比
就業総数	1,228	100.0%	1,417	100.0%	1,271	100.0%	1,384	100.0%
第1次産業	246	20.0%	344	24.3%	289	22.7%	373	27.0%
農業	215	17.5%	320	22.6%	271	22.1%	355	25.7%
林業	14	1.1%	5	0.4%	10	—	11	0.8%
漁業	17	1.4%	19	1.3%	8	0.6%	7	0.5%
第2次産業	326	26.6%	343	24.2%	254	20.0%	236	17.0%
鉱業	2	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	2	0.1%
建設業	247	20.1%	223	15.7%	161	12.7%	154	11.1%
製造業	77	6.3%	120	8.5%	92	7.2%	80	5.8%
第3次産業	656	53.4%	730	51.5%	725	57.0%	774	55.9%
卸売・小売業	161	13.1%	130	9.1%	103	8.1%	110	7.9%
金融・保険業	9	0.7%	7	0.5%	2	0.2%	1	0.1%
不動産業	0	0.0%	0	0.0%	5	0.4%	7	0.5%
運輸・通信業	35	2.9%	61	4.3%	38	3.0%	41	3.0%
電気・水道業	7	0.6%	4	0.3%	4	0.3%	2	0.1%
サービス業	326	26.5%	422	29.8%	476	37.4%	499	36.1%
公務	118	9.6%	106	7.5%	97	7.6%	114	8.2%
分類不能	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%	1	0.1%

農業の推移

	総農家数(戸)				
	専業農家	兼業農家		自給的農家数	
		第1種兼業農家数	第2種兼業農家数		
平成11年	229	61	27	58	83
平成16年	255	76	23	64	92
平成21年	252	84	29	54	85
平成26年	214	107	14	49	44

資料：農林業センサス

工業の推移

	事業者数	従業者数	製造品出荷額等(万円)
平成18年	5	49	37,320
平成19年	5	46	48,353
平成21年	4	28	22,117
平成26年	4	63	26,344

注：従業員4人以上の事業所

資料：工業統計

商業の推移

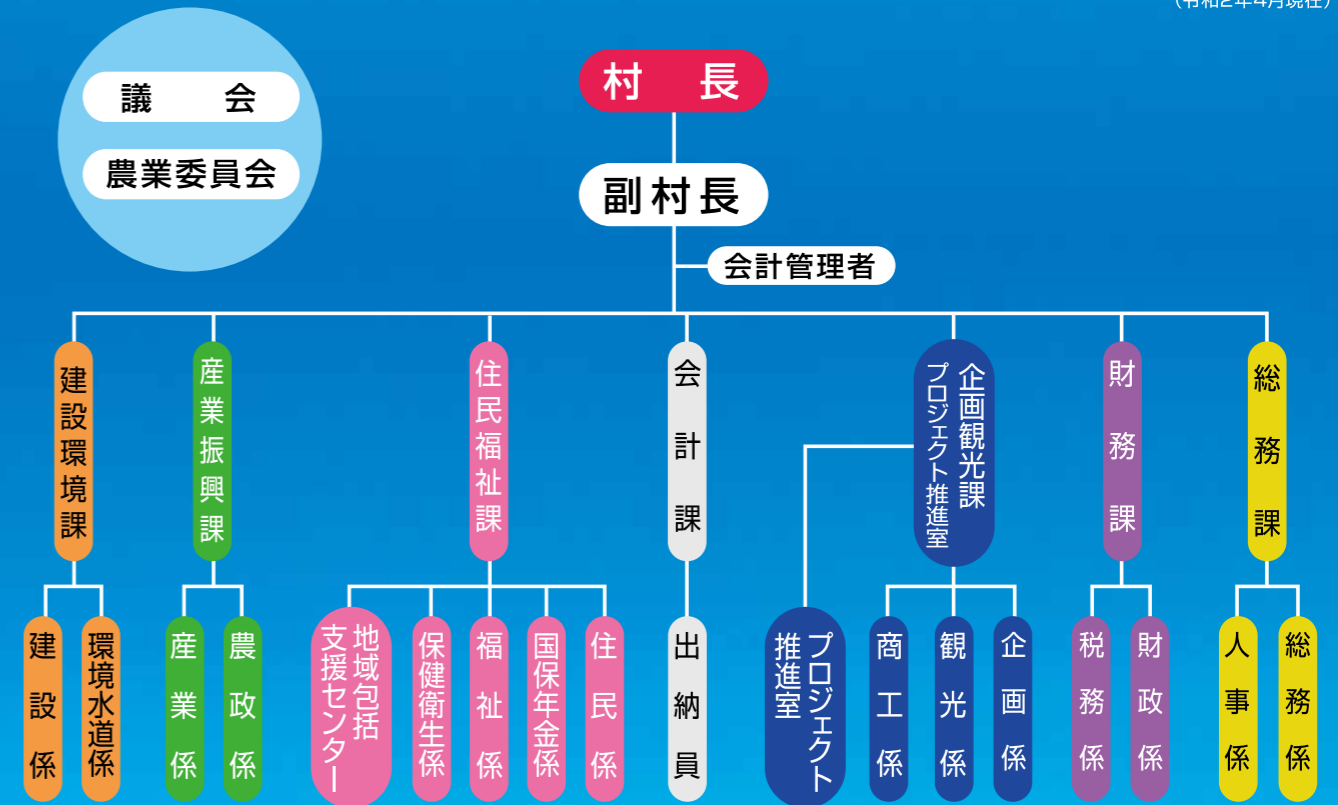
	事業者数	従業者数	製造品出荷額等(万円)
平成9年	39	98	37,320
平成14年	66	177	48,353
平成19年	58	132	22,117
平成24年	58	132	97,500

注：従業員4人以上の事業所

資料：商業統計

大宜味村行政機構


(令和2年4月現在)



教育委員会



大宜味村のあゆみ

年	月日	沿 革
1908(明治41)	4 / 1	沖縄県及び島嶼町村制の施行 大宜味間切が大宜味村になり、各村が字に改称 この年間切の地頭代だった山川文光が初代村長 に任命された(～2代)
1909(明治42)	5 / 11 11 / 26	白浜出身の平良保一、県議員に立候補し当選 県議員補欠選挙、喜如嘉出身の平良真順当選 この年喜如嘉出身の金城清松、沖縄にて初めて フィリア母虫を発見する
1910(明治43)	4 / 1	津波分教場、独立して津波尋常小学校となる
1911(明治44)	7 / 28	役場移転の件で下方(南方)住民600余人塩 屋校に会す
	8 / 26	津波・塩屋両校の改・新築を条件として役場を 字大宜味に移す
1914(大正3)	9 / 1	大山岩蔵、大宜味校訓導校長となる(本村出身 の最初の校長)
1918(大正7)	4	喜如嘉、塩屋の両校にも高等科を併置、尋常高 等小学校と改称
	5 / 11	津波校と高等科併置される
1921(大正10)		この年大宜味村公設質屋を設立
1923(大正12)	9 / 10	大宜味郵便局の事務開始 この年の9月1日関東大震災おこり、村内でも 津波の害をうけた
1924(大正13)	12	大宜味村役場の上棟式
1925(大正14)	2 / 25	役場新庁舎で初めて 村会が開催される
	3 / 6	役場工事竣工
	5 / 25	役場の落成式挙行
		
1928(昭和3)	2 / 8	村の共同蚕室落成(5・5蚕室落成)
	8 / 2	村長選挙、天野(旧制金城)村長三選される
	10 / 19	屠殺場の開業挙行 この頃から塩屋・辺土名間をリヤカー(三輪車) で客を運ぶようになる この頃那覇において大宜味大工が中心になって国頭大 工組合が結成される
1929(昭和4)		この年村営の製茶工場が饒波に設置される
1931(昭和6)	8	大宜味村村政革新同盟が組織され、村政革新運動起こ る・9日頃から村内各字で村政批判演説会開かれる 南陽自動車の試運転行われる(塩屋～辺土名間)
	12 / 13	前田耕一村長に就任
1932(昭和7)	6 / 14 10 / 4	山城東栄、村長に選ばれる(前村長の死去に伴う) 経済更生計画樹立村として県から指定
	11	この年大宜味国防婦人会結成される
1933(昭和11)		沖縄県教化連合会では大宜味村を教化町村に指定する 宮城島に96間の橋が架設(字民の労働奉仕)
1937(昭和12)		毎月日2日・13日・22日の3回酒無日に決める
1938(昭和13)	1 5 / 25	大宜味村国民健康保険組合設立 字根路路の水車設備(タービン車)完成 この頃から学校を中心に標準語励行運動が盛んになる この年東京三越の特産物即売会に大宜味村特産の芭蕉 布300反を出品
1940(昭和15)	7 / 1 11 / 27	村会議員・村長選挙、山城東栄村長となる 猪狩りに村民総動員、学童も参加
		12・11の『朝日新聞』に日本一の常会と字 根路路が紹介された
1941(昭和16)	2 / 9 4 / 1 11 / 1	愛国婦人会発会式挙行 3月1日に国民学校令が公布され、国民学校に改称 村常会、村内行事は元旦から新暦に改めることを決める
1942(昭和17)	2 / 17	大宜味丸就航祝賀会
1943(昭和18)	4 / 20	大宜味村青年学校開校式(独立校)
	8 / 10	標準語励行部落として喜如嘉が県から表彰される
1944(昭和19)	8 10 / 10	学童疎開申出を受け付ける 10月10日の大空襲で那覇方面から避難民殺到。 学校を宿舍にあてる
1945(昭和20)	2 3 / 3 3 / 23 3 / 25 4 / 2	疎開者受入小屋作り行われる。疎開者増える 喜如嘉校閉鎖(男子教員全員応召) 空襲猛烈、塩屋校東校舎爆破。山中への避難始まる 塩屋警察署新設される 大宜味校校舎空襲のため全焼

年	月日	沿 革
	7 / 15	住民下山する。収容所へ
	7 / 27	この頃から各部落で広場を利用して学校が始まる 算用用具がないので木の葉の裏等を利用して勉強する
	7 / 29	津波、臨時学校を開始
	9 / 1	国頭村・大宜味村に市政が布かれ辺土名市となる
	9 / 25	辺土名市長選挙、山城東栄市長に当選する
	12 / 6	各部落学校を統合し大宜味初等学校を開校
	12 / 9	宮里金次郎、村長に任命される
	12 / 11	田港初等学校開校
	12 / 17	喜如嘉初等学校の開校式
1946(昭和21年)	1 / 5	この年大宜味村役所開庁式。辺土名高等学校開校式
	1 / 7	大宜味郵便局設置
	2 / 23	大宜味青年学校開校式
	2	この頃、分村問題もちあがる
	3 / 21	田港初等学校、塩屋へ移転し塩屋初等学校と改称
	3	大宜味村大工工業組合の結成式
	4 / 1	幼稚園教員発令 → (各字単位で幼稚園発足)
	4 / 21	大宜味村農業協同組合創立総会
	6 / 12	村内各売店の販売開始
	7 / 26	村有帆船進水式
	10 / 13	渡野喜屋を白浜と改称 この年、村の人口ピークに達する
1947(昭和22)	4 / 1	大宜味青年実業高等学校校舎起工式(26日同校舎落成) 分村についての陳情却下される
1948(昭和23)	2 / 1	戦後初の村長選挙、平良仁一無投票で村長に選出
	2 / 8	村会議員選挙、無投票で26人
	4 / 1	新教育制度(6・3・3)実施により、大宜味 初等学校は小学校と中学校に分離し、他の3校 は小・中学校が併置される
	10 / 1	村青年会結成
	11 / 21	村婦人会結成
1949(昭和24)	1 / 8	八重山移民促進陳情書提出
1950(昭和25)	9 / 3	宮里金次郎、村長に無投票当選 村会議員選挙(無投票 10人選出)
1951(昭和26)	11 / 27	村農業協同組合設立総会 喜如嘉火葬場落成祝
1952(昭和27)	5 / 13	村会議室着工(煉瓦建)
1953(昭和28)	12 / 21	親子ラジオ施設工事完了放送テスト
1954(昭和29)	1 / 27	村農業協同組合解散総会
	3 / 14	村出身宮城正行、立法院議員に当選
	6 / 10	ポリビア移民壮行会(一行 19人)
	9 / 5	宮里金次郎、村長に無投票当選
	3 / 16	村育英会結成総会
1955(昭和30)	3 / 16	立法院議員総選挙(17日開票 宮里金次郎当選)
1958(昭和33)	4 / 13	村長選挙(14日開票 宮城丈正当選)
	7 / 12	霊魂の塔除幕式
	10 / 10	大宜味登記所落成式
1959(昭和34)	4 / 10	江洲大堂開拓地入所式(第1次入植 9戸)
	10 / 16	台風18号シャーロット来襲被害甚大
1960(昭和35)	4 / 16	塩屋橋起工式
	5 / 24	チリ津波全島を襲う、宮城橋流出する
	11 / 13	立法院議員総選挙(14日開票 新里清篤当選)
	12 / 4	宮城丈正村長辞任届
1961(昭和36)	1 / 22	島袋幸喜、村長に無投票当選
	3 / 23	宮城橋起工式
1962(昭和37)	6 / 9	村老人クラブ結成式
	6 / 9	村会議員選挙(10日開票 16人)
	10 / 7	村長選挙、根路銘安昌無投票当選(前村長逝去)
1963(昭和38)	6 / 5	塩屋橋開通式祝賀会
1966(昭和41)	5 / 20	村内各農協合併総会
	9 / 11	村会議員選挙(12日開票 16人)
	9 / 25	村長選挙、根路銘安昌無投票当選(再選)
1967(昭和42)	4 / 17	村青少年健全育成協議会結成総会
1968(昭和43)	6 / 26	村給食センター落成(大宜味校内)
1970(昭和45)	9 / 20	村内村長選挙、根路銘安昌当選(3選)
1971(昭和46)	4 / 5	塩屋湾淡水化計画反対陳情(政府へ)
	8 / 25	中学校統合促進合同委員会
	11 / 29	火葬場落成式
1972(昭和47)	5 / 15	施政権、日本に返還、ドルと円の交換

大宜味村のあゆみ

年	月日	沿 革	
1972(昭和47)	6 / 17	庁舎落成祝賀会	
1974(昭和49)	4	喜如嘉の芭蕉布 重要無形文化財として 国の指定	
	8 / 30	村立診療所落成開所式	
	9 / 16	村長選挙、無投票で 根路銘安昌当選(4選)	
1975(昭和50)	1 / 15	第1回おおぎみ展	
1977(昭和52)	3 / 31	塩屋保育所落成祝賀会	
1978(昭和53)	9 / 24	村長選挙、無投票で根路銘安昌当選(5選)	
	4 / 10	旧質屋の建物取り壊す	
	5 / 2	塩屋大橋開通 15周年記念マラソン大会	
	5 / 27	村商工会設立総会	
	6	村教育委員会、喜如嘉貝塚範囲確認発掘調査	
1979(昭和54)	3 / 31	大宜味村史(通史・資料編2巻)発刊	
1980(昭和55)	4 / 1	村立大宜味中学校合併統合による新設	
1981(昭和56)	3 / 31	農村環境改善センター完成	
	4 / 1	喜如嘉保育所開所	
	4 / 1	村営住宅供用開始(平成24年現在162戸)	
	8 / 1	第1回大宜味村夏まつり	
	8	村花・村木にシークワサー、村鳥にメジロを制定	
			
1982(昭和57)	4 / 1	村立歯科診療所開所(大兼久)	
	4 / 1	一心療護園開所	
	7 / 2	非核宣言に関する決議(村議会)	
	9 / 19	新城繁正、村長に無投票当選	
1983(昭和58)	2 / 19	村議会棟落成式	
	4 / 1	村営簡易水道給水開始	
1986(昭和61)	4 / 1	村立芭蕉布会館落成	
	4 / 1	村立大宜味幼稚園開園	
	9 / 7	村長選挙、新城繁正無投票当選(再選)	
1987(昭和62)	9	塩屋湾、第42回国民体育大海邦国体漕艇競技 会場となる	
	1988(昭和63)	4 / 1	村営簡易水道施設整備事業完了
	1989(平成1)	11 / 17	農村総合整備モデル事業完成式
	1990(平成2)	4 / 1	農村情報連絡施設開局
	9 / 9	村長選挙、新城繁正当選(3選)	
	11 / 3	第1回大宜味ふるさと祭り(塩屋小学校)	
	1993(平成5)	4 / 23	「長寿村日本一宣言」(大宜味村老人クラブ連合会)
	11 / 19	えすの里落成式(津波)	
1994(平成6)	4 / 1	高齢者等活性化センター供用開始	
	9 / 11	村長選挙、照屋林三当選 議会議員選挙(14名)	
1995(平成7)	3 / 30	大園林道開通式(全長35.5キロメートル)	
	10 / 31	大保ダム建設に係る条件書手交式	
	11 / 17	世界のウチナーンチュ大会村出身者歓迎会(第 1回)	
1996(平成8)	4 / 8	1回)	
1997(平成9)	4 / 1	新学校給食センター落成式(饒波)	
	5 / 25	村保健指導所落成式	
	11 / 18	八重山一心会結成30周年記念式典	
	12 / 15	旧大宜味村役場庁舎、県有形文化財に指定(建築物) 塩屋湾のウナギ、 国指定重要無形民俗 文化財に指定	
			
1998(平成10)	7 / 24	大宜味村制施行90周年記念式典。 記念事業「ぶながやの里」宣言など	
	9 / 20	村長選挙 照屋林三当選(2選)	
	11 / 2	老人ホームやんばるの家落成式(津波)	
	12 / 21	村営火葬場落成	
1999(平成11)	3 / 27	新塩屋大橋開通式	
	4 / 10	江洲区入植40周年記念式典	

年	月日	沿 革
	10 / 14	全国重要無形文化財保持団体協議会及び秀作展 大宜味村開催 11時に道の駅おおぎみオープン
	11 / 11	平良敏子さん「芭蕉布」の保持者人間国宝認定
2000(平成12)	6 / 6	大保ダムの本体工事着工に関する覚書締結(国・県・村)
2001(平成13)	3 / 28	世界のウチナーンチュ大会村出身者歓迎交流会(第2回)
	11 / 3	大宜味小学校120周年記念式典
2002(平成14)	5 / 25	村長選挙 島袋義久当選
	9 / 8	塩屋湾外海公有水面埋立許認可願書提出
	12 / 20	塩屋湾外海公有水面埋立免許交付
2003(平成15)	6 / 19	塩屋湾外海公有水面埋立工事の着工
	9 / 10	塩屋小学校創立100周年
2004(平成16)	11 / 21	大保ダム定礎式
2005(平成17)	2 / 13	大宜味村特産品加工施設落成式
	7 / 29	村議会「シークワサーの里宣言」決議
	9 / 30	「大宜味の猪垣」
	10 / 1	村指定文化財
	10 / 6	シークワサー拠点産地として村全体認定される
2006(平成18)	3 / 15	議会史発刊
	9 / 10	村長選挙 島袋義久当選(2選)
	10 / 14	世界のウチナーンチュ大会村出身者歓迎交流会(第3回)
	11 / 17	大保ダム盛立完了
		
2007(平成19)	3 / 1	塩屋ウフンチャのハスノハギリが村指定文化財 第2号に認定
	10 / 19	塩屋湾外海公有埋立竣工式 愛称「結の浜」と命名
2008(平成20)	11 / 21	喜如嘉小学校創立120周年記念式典
	12 / 5	大宜味村制施行100周年記念式典・祝賀会
2010(平成22)	2 / 18	大宜味村社会福祉協議会20周年記念式典 第1回大宜味村社会福祉大会
	8	2010美ら島沖繩総体ボート競技大会
	9 / 12	村長選挙 島袋義久当選(3選)
	11 / 7	津波小学校100周年記念式典祝賀会
2011(平成23)	2 / 1	大宜味浄化センター通水記念式典
	4 / 1	大保ダム供用開始
	10	全国重要無形文化財保持団体協議会大宜味大会 大宜味村診療所(結の浜)へ移転
	10 / 15	世界のウチナーンチュ大会村出身者歓迎交流会(第4回)
2012(平成24)	11 / 17	大宜味村役場旧庁舎米寿祝
2013(平成25)	8 / 30	大宜味村企業支援貸付工場落成式
2014(平成26)	4 / 30	結の浜公園オープン
	9 / 7	村長選挙 宮城功光当選
2015(平成27)	12 / 6	辺土名高校創立70周年記念式典
	11 / 1	村内各小学校最後の大運動会
	1 / 31	村内各小学校閉校式典
	2 / 7	新生大宜味小学校開校
	4 / 1	大宜味中学校新築移転
2016(平成28)	9 / 15	やんばる3村「やんばるの国立公園」に指定
2017(平成29)	2 / 22	大宜味村の蝶「コノハチョウ」「ツマベニチョウ」認定
	2 / 23	「大宜味村役場旧庁舎」国指定重要文化財(建築物)に認定
2018(平成30)	1	大宜味中学校1年生が新たな村の特産品「シー クワサー酢SKS+S」開発
	5 / 8	前田國男さん(謝名城)、沖縄県指定無形文化財保 持者(琉球漆器)に認定
	6 / 1	「大宜味村民憲章」制定
	9 / 9	村長選挙 宮城功光当選(2選)
	11 / 4	福島県西会津町と「結」交流協定締結
	11 / 16	「こども議会」初開催
2019 (平成31・令和元年)	6 / 7	「大宜味村観光協会」設立
2020(令和2)	11 / 11	大宜味村制111周年記念式典・祝賀会
	2 / 22	「やんばるの森ビジターセンター」オープン
	3	大宜味幼稚園開園
	4 / 1	喜如嘉・塩屋保育所開所 「おおぎみこども園」開園

問い合わせ先

■村内主要施設

施設名称	住所	電話番号
■村の公共施設		
大宜味村役場	大宜味村字大兼久157番地	3001
道の駅おおぎみ やんばるの森ビジターセンター	大宜味村字津波95番地	2233
農村環境改善センター	大宜味村字喜如嘉320番地	3672
農村活性化センター	大宜味村字根路銘1373番地	3048
村立喜如嘉公民館	大宜味村字喜如嘉777-1	3809
芭蕉布会館	大宜味村字喜如嘉454番地	3033
大宜味村立診療所	大宜味村字塩屋1306-62	50-5450
大宜味村歯科診療所	大宜味村字塩屋987-3	2222
大宜味村特産品加工施設	大宜味村字田港1043番地	2312
■学校・保育所		
おおぎみこども園	大宜味村字塩屋1306-87	2500
大宜味小学校	大宜味村字塩屋1306-6	1306
大宜味中学校	大宜味村字塩屋1306-6	2840
辺土名高校	大宜味村字饒波2015番地	3103
学校給食センター	大宜味村字饒波2204-1	3774
■観光案内		
大宜味村観光協会	大宜味村字津波95番地	50-5707
おおぎみまるごとツーリズム協会	大宜味村字田港1357-18	1960
■社会福祉協議会		
大宜味村社会福祉協議会	大宜味村字喜如嘉320番地	3800
大宜味村地域包括支援センター	大宜味村字大兼久157番地	3011
■商工会		
大宜味村商工会	大宜味村字喜如嘉320番地	3442
■警察・消防		
喜如嘉駐在所	大宜味村字喜如嘉1140番地	3556
塩屋駐在所	大宜味村字塩屋716番地	2102
国頭地区行政事務組合消防本部	国頭村字辺土名1727	41-5100
消防本部東分遣所	東村字平良381-1	43-3119
■その他の施設		
県企業局根路銘増圧ポンプ場	大宜味村字根路銘1483-1	3249
大宜味郵便局	大宜味村字大宜味175番地	3237
JAおきなわ大宜味支店	大宜味村字大兼久150番地	3133
JAおきなわ集出荷場	大宜味村字根路銘1461番地	3330
JAおきなわくがに給油所	大宜味村字津波273番地	2105
障害者支援施設 えすの里	大宜味村字津波1971-35	2112
就労センター えすの里	大宜味村字津波418番地	2117
特別養護老人ホーム やんばるの家	大宜味村字津波1971-35	2288
障害者支援施設 一心療護園	大宜味村字津波1971-35	2234
小規模多機能ホーム いっしん	大宜味村字津波418番地	2662

目で見る大宜味村

村の人口

令和2年7月31日現在



3,069人

平均世帯人数

令和2年7月31日現在



世帯数1,670世帯
1世帯に1.84人

転入

平成27年4月1日～平成28年3月31日



1年に199人

転出

平成27年4月1日～平成28年3月31日



1年に170人

出生

平成27年4月1日～平成28年3月31日



1年に20人

死亡

平成27年4月1日～平成28年3月31日



1年に50人

結婚

平成27年4月1日～平成28年3月31日



1年に13カップル

離婚

平成27年4月1日～平成28年3月31日



1年に6カップル

ゴミ収集量

平成27年4月1日～平成28年3月31日



1ヶ月1人当たり22.3kg

水道使用量

平成27年4月1日～平成28年3月31日



1ヶ月1人当たり
18,881.4ℓ

火災

平成28年1月1日～平成28年12月31日



1年に6件

救急出動

平成28年1月1日～平成28年12月31日



1年に259件

軽自動車

平成29年2月28日現在



1,540台
1世帯に0.5台

村民平均年齢

平成29年2月28日現在



50.97歳

一般会計の決算

歳出=51億5,333万円

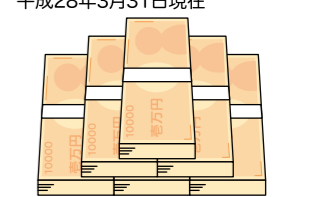
平成27年度



村の借金

43億3,467万円

平成28年3月31日現在



1人当たり137万3,469円

村税負担

平成27年度



1人当たり6万7,746円

医師〈歯科医師含む〉

令和2年度7月31日現在



村民1.534人に1人

村職員

令和2年度7月31日現在



38.8人に1人

村議会議員

令和2年7月31日現在



村民306.9人に1人



大宜味村村勢要覧

発行：令和2年10月改訂
編集：大宜味村役場企画観光課
〒905-1392 大宜味村字大兼久157番地
TEL：0980-44-3007
FAX：0980-44-3029
<http://www.vill.ogimi.okinawa.jp/>

制作・印刷 / サン印刷
<http://www.sun-insatu.co.jp/>

